

実用オランダ語文法  
**A PRACTICAL DUTCH GRAMMAR**

by

ヨランダ・スパーンズ著  
**YOLANDE SPAANS**

財団法人 日蘭学会 訳  
**THE JAPAN-NETHERLANDS INSTITUTE**

Version 1.2

**This revised edition benefited from the work of Natsumi Kawano**

**Copyright © 2016 Yolande Spaans & Japan-Netherlands Institute. All rights reserved. No part of this grammar may be reproduced or distributed in any form or by any means without the prior written permission of the copyright holders.**

## 目次

第1章	アルファベットとつづり	2
第2章	語順 (その1) 基本	5
第3章	代名詞 (その1) 人称代名詞	5
第4章	動詞 (その1) 規則動詞の現在形	7
第5章	動詞 (その2) 不規則動詞の現在形	9
第6章	疑問文	11
第7章	名詞	13
第8章	冠詞	17
第9章	形容詞	18
第10章	否定	21
第11章	代名詞 (その2) 指示代名詞	24
第12章	<i>er</i>	24
第13章	動詞 (その3) 命令法	28
第14章	動詞 (その4) 姿勢を表す動詞	28
第15章	代名詞 (その3) 所有代名詞、再帰代名詞、相互代名詞	29
第16章	動詞 (その5) 規則動詞の過去形	31
第17章	動詞 (その6) 規則動詞の完了形	33
第18章	動詞 (その7) 不規則動詞の過去形と完了形	36
第19章	語順 (その2) 長い主節のとき	37
第20章	動詞 (その8) <i>te</i> の付く不定詞と付けない不定詞	39
第21章	動詞 (その9) 未来時制	42
第22章	動詞 (その10) 受動態	42
第23章	重文・複文 (その1) 主節と主節をつなぐ	43
第24章	重文・複文 (その2) 主節と従属節をつなぐ	44
第25章	代名詞 (その4) 関係代名詞	49
第26章	重文・複文 (その3) 関係詞節	51
第27章	動詞 (その11) 分離動詞と非分離動詞	51

## 付録

I	不規則動詞表	55
II	数詞	62
III	数量単位	64
IV	日時	66
V	前置詞	70
VI	副詞	77
VII	人や物を指す言葉	80
VIII	基本文法用語集	83

## 第1章 アルファベットとつづり

### a. アルファベット

大文字	小文字	オランダ語の つづりで表した読み	英語による 類似発音 <sup>1</sup>	オランダ語の単語 での発音練習
A	a	aa <sup>2</sup>	ah	straat, water
B	b	bee	bay	baard, beter
C	c	see	say	centimeter <sup>3</sup>
D	d	dee	day	daar, draak
E	e	ee	ay	veel, mee
F	f	ef	eff	fles, foto
G	g	gee	(-) <sup>4</sup>	gaar, geven
H	h	haa	hah	haan, heet
I	i	ie	ee	bikini
J	j	jee	yay	ja, jaar
K	k	kaa	kah	kaas, keel
L	l	el	ell	laat, lepel
M	m	em	emm	maar, meter
N	n	en	enn	naar, nee
O	o	oo	oh	boot, foto
P	p	pee	pay	paard, peen
Q	q	kuu	(-) <sup>5</sup>	quota
R	r	er	air	raar, rebus
S	s	es	ess	straat, steel
T	t	tee	tay	traan, totaal
U	u	uu	(-)	buur, zuur
V	v	vee	vay	vaar, veel
W	w	wee	way	water, weet
X	x	iks	iks	extra
Y	y	ij	(-)	trein, wijn
Z	z	zet	zett	zebra, zomer

大文字は次の語の語頭（最初の文字）に使われる。

- ・ 新たな文の文頭の語
- ・ 本や映画やテレビ番組などの題名の、最初の語のみ

<sup>1</sup> 最も近い英語の音を使ってオランダ語のアルファベットの読みを表したもの。

<sup>2</sup> 喉の痛みを医者に診てもらうときに、口を大きく開けて「あー」と発する音。

<sup>3</sup> 「c」の後ろに「e」や「i」があるときは、/s/と発音する。その他の母音や子音が続くときは、/k/と発音する。

<sup>4</sup> スコットランド語の単語「loch（ロッホ）」と比較すること。

<sup>5</sup> 英語の「quarter」と同様に、「q」は常に「u」とともに使われる。

- ・ 名字や名前
- ・ 祝祭日、歴史上の事件、時代などの名称
- ・ 成人や聖なる物の名前・称号
- ・ 国や地域およびそこに住む人々やそこで使われる言語の名称と、それらの名詞から派生する形容詞
- ・ 道路名、都市名、そこに住む人々、河川、湖沼の名称など、その他の地理的名称すべて

例

Hij is Nederlander.	彼はオランダ人です。
Hij woont in Amsterdam.	彼はアムステルダムに住んでいます。
Hij woont in de Beethovenstraat.	彼はベートーベン通りに住んでいます。
Zijn naam is Jan Jansen.	彼の名前はヤン・ヤンセンです。
Hij leest <i>Lof der zotheid</i> van Erasmus.	彼はエラスムスの『愚神礼讃』を読んでいます。
Erasmus was een Nederlandse geleerde.	エラスムスは、オランダの学者でした。

## b. つづり

オランダ語には5つの母音字 **a, e, i, o, u** があり、「長母音」か「短母音」 (**ā / ǎ, ē / ě, ī / ĭ, ō / ǒ, ū / ũ**) として発音される。オランダ語では、母音の長短のみが異なるミニマル・ペア (最小対語)<sup>6</sup>の語が数多くあるため、長母音と短母音の区別は特に重要である。

短母音		長母音	
<b>man</b>	男の人	<b>maan</b>	月
<b>tak</b>	枝	<b>taak</b>	仕事、任務
<b>ram</b>	雄羊	<b>raam</b>	窓
<b>bon</b>	券、チケット	<b>boon</b>	豆
<b>zon</b>	太陽	<b>zoon</b>	息子
<b>wil</b>	意思、願望	<b>wiel</b> <sup>7</sup>	車輪

つづりの規則の前に、まずは「音節」と単語を音節に区切るときの区切り方について説明する。

音節には、「開音節」と「閉音節」の2種類がある。「開音節」とは母音で終わるものを、「閉音節」とは子音で終わるものをいう。単語には、1音節だけからなるものと、複数の音節からなるものがある。音節は、その語をゆっくり発音すればわかる。

<sup>6</sup> ミニマル・ペア (最小対語) とは、つづりがほぼ同じで、意味が全く異なる単語のこと。

<sup>7</sup> 「i」の長母音/i:/は通常、「閉音節」でも「開音節」でも「ie」と表記されるが、なかには、benzine や Afrika など、開音節の長母音/i:/を「i」で表記することもある。

語の中ほどに子音が1つあるときは、通常はこの子音の前で分かれる（例：ma-nen, ra-men, zo-nen）。語の中ほどに子音が2つ続いているときは、通常は子音と子音の間で分かれる（例：man-nen, bus-sen, ken-nen）。

### 1 音節のみからなる語の例

man	男の人
maan	月
ma	母、ママ

はじめの2語は子音で終わっているので閉音節、3つ目の語は母音で終わっているので、開音節である。

### 複数の音節からなる語の例

Eu-ro-pa	ヨーロッパ
ta-fel	テーブル
con-so-nant	子音

**Europa** という語は、3つの開音節できている。**tafel** という語は、開音節1つと閉音節1つの2音節からなる。**consonant** という語には、閉音節・開音節・閉音節の3音節がある。

母音は、音節の中で短母音のときも長母音のときもある、単語を正しくつづるためには次の規則を用いる。

1. 閉音節の長母音は、母音字を2つ重ねる。例：maan, rood, buur
2. 開音節の長母音は、母音字は1つでよい。例：ma-nen, ro-de, bu-ren<sup>8</sup>
3. 閉音節の短母音は、母音字は1つとなる。例：man, bon, wit, zit  
屈折によって（語尾が付いて）語が長くなるときは、子音を2つ重ねて閉音節にすることで、短母音を維持する。例：man-nen, bon-nen, wit-te, zit-ten.

つまり、これら長母音と短母音の発音については、次のとおりとなる。

1. 閉音節の中で長母音2つで表された母音（**aa, ee, ie, oo, uu**）は、長母音となる。例：maan, wiel, rood, buur
2. 開音節の中で母音字1つで表された母音（**a, e, i, o, u**）は、長母音となる。例：ma-nen, bi-ki-ni, ro-de, bu-ren
3. 閉音節の中で母音字1つで表された母音（**a, e, i, o, u**）は、短母音となる。例：man, bon, wit, zit.

この規則は次のような場合特に重要となる。

- ・名詞に**-en**を付けて複数形にするとき。例：maan→manen, man→mannen
- 形容詞に**-e**を付けるとき。例：rood→rode, wit→witte
- ・動詞の活用形を作るとき。例：loop→lopen, zit→zitten.

<sup>8</sup>ただし、「ie」と書かれる開音節の長母音/i/は、そのままこの2母音字で表記する。例：wie-len, kie-zen

## その他のつづりに関する決まり

子音で **f** と **s** の 2 つは注意を要する。**f** と **s** の後ろに母音字が来ると、たいてい **f** は **v** に、**s** は **z** に変わる。例：graaf→graven, kaas→kazen

オランダ語では、語末に同じ子音字が 2 つ重なることはない。従って、\* **kenn** や \* **mann** などのつづりにはならない。<sup>9</sup> 正しくはそれぞれ、**ken** と **man** である。

## 第 2 章 語順 (その 1) 基本

人称代名詞や定形動詞について見ていく前に、まずは語順について述べる。平叙文の主節では、<sup>10</sup>定形動詞（活用形にした動詞）は常に文の 2 番目の位置をとり、標準的な語順は「主語—動詞—残りの部分」となる。

**Ik zie hem vandaag.**                      私は今日彼に会う予定です。

また、主語のかわりに文のほかの要素が文頭に来ることがある。この場合、主語は動詞のすぐ後ろの、文の 3 番目の位置に移動し、語順は「X—動詞—主語—残りの部分」となる。

**Vandaag zie ik hem.**                      \* 今日、会う予定です、私は彼に。

動詞の後ろに主語を置くことを「倒置」という。主語と定形動詞の間、または定形動詞と主語の間には、通常ほかの語は入らない。主語ではかなり頻繁に語順の倒置が起きる。

語順については第 19 章を、疑問文での倒置については第 6 章を参照。

## 3. 第 3 章 代名詞 (その 1) 人称代名詞<sup>11</sup>

人称代名詞には、主格と非主格の 2 つの形がある。  
非主格（目的格）は、目的語と前置詞の後ろに用いられる。

**Ik zie hem morgen.**                      私は明日彼に会います。  
**Ik wacht op hem.**                      私は彼を待っています。

<sup>9</sup> 単語や文の前の \*印は、その単語や文が文法的に誤りであることを示す。

<sup>10</sup> 平叙文の主節とは陳述の文であって、疑問文ではない。

<sup>11</sup> 人称代名詞には、昔の格変化の名残がまだ見られる。

	主格	目的格			
単数	1	ik	私は	me/mij	私を
	2	je/jij	あなたは	je/jou	あなたを、あなたに
		u	あなたは (丁寧)	u	あなたを、あなたに (丁寧)
	3	hij	彼は	hem <sup>12</sup>	彼を、彼に
		ze/zij	彼女は	haar <sup>13</sup>	彼女を、彼女に
		het	それは	het <sup>14</sup>	それを、それに
複数	1	we/wij	私たちは	ons	私たちを、私たちに
	2	jullie	あなたたちは	jullie	あなたたちを、あなたたちに
	3	ze/zij	彼らは	ze/hen/hun <sup>15</sup>	彼らを、彼らに

通常、非強調形の **je** や単数複数双方の **ze** や **we** が主語では用いられ、**jij, zij, wij** は強調するときのみ用いられる。目的格でも同じように、**me, je, ze** が通常用いられ、強調するときに、**mij, jou, hen/hun** が用いられる。

オランダ語では、2人称に「敬称」と「親称」の区別がある。**je/jij** (単数) と **jullie** (複数) が親称、**u** が敬称である。**u** は、単数・複数の両方に用いられるが、単数・複数にかかわらず、その動詞は必ず単数形となる。

敬称 **u** は見知らぬ相手や年上の人に対して、親称 **je/jij** は親が子に対して (近年では親子の間で)、また友人同士の間で用いられる。

オランダ語の3人称単数形には、男性 (**hij/hem**)、女性 (**zij/haar**) と中性 (**het/het**) の区別があるが、複数形では性の区別はない。

3人称複数の目的格のうちの **hen** と **hun** の使い方にも触れておく。

正式には、目的格 **hen (ze)** は「直接目的語」としてかまたは前置詞の後ろで使い、**hun (ze)** は「間接目的語」として使う。

例えば、動詞の **zien** (見る、見える) の場合、この動詞は直接目的語 ([人] を見る) をとるのでこれには目的格の **hen (ze)** が用いられることになる。

<b>Ik zie de studenten.</b>	私はその学生たちを見ます (その学生たちが見えます)。
<b>Ik zie hen (ze).</b>	私は彼らを見ます (彼らが見えます)。

動詞の **geven** (与える) は目的語を1つとる場合がある。その場合は直接目的語 ([物] を与える) である。

<sup>12</sup> 口語体では **'m** となる。

<sup>13</sup> 口語体では **d'r** となる。

<sup>14</sup> 口語体では主格でも目的格でも **'t** となる。目的格の **het** は前置詞の後ろには使わない。そのかわりに **er** と前置詞の組み合わせを用いる。**er** に関する第12章参照。

<sup>15</sup> 非強調形の **ze** が人と物を指すのに対し、強調形の **hen** と **hun** は人のみを指す。

**Ik geef een boek.** 私は本をあげます。

ところが、動詞 **geven** は目的語を2つとることがある。その場合そのうちの1つが直接目的語、もう1つが間接目的語となって、「[人] (間接目的語) に [物] (直接目的語) を与える」となる。ここで、間接目的語として **hun** が用いられる。<sup>16</sup>

**Ik geef de studenten een boek.** 私はその学生たちに本をあげます。  
**Ik geef hun (ze) een boek.** 私は本を彼らにあげます。

間接目的語は、**aan** を用いた前置詞句に置き換えることもできる (物を「人に」与える)。その場合、前置詞の後ろなので **hen** を用いる。

**Ik geef een boek aan de studenten.** 私は本をその学生たちにあげます。  
**Ik geef een boek aan hen (aan ze).** 私は本を彼らにあげます。

## 第4章 動詞 (その1) 規則動詞の現在形

オランダ語の動詞の原形 (不定詞) は、ほとんどが **-en** で終わる (例: **werken, maken, reizen**)。また、たいていが現在時制では規則変化をする。

規則動詞の現在形を作るには、まずその動詞の語幹を見つけなければならない。そのための手順は次のとおりとなる。

1. 動詞の原形 (不定詞) <sup>17</sup>から始める。
2. 語尾の **-en** を取り除く。
3. その残りが次に該当する場合は、つづりを修正する。
  - a. 長母音であるべき母音字のすぐ後ろに子音が1つある場合は、同じ母音字を1つ追加する。
  - b. 末尾に同じ子音字が2つ重なっているときは、そのうち1つを取り除く。
  - c. 末尾の **z** を **s** に変える。
  - d. 末尾の **v** を **f** に変える。こうしてその動詞の語幹ができる
4. 人称・数に応じて活用形を作る。

<b>ik</b>	: 語幹のみ
<b>je/jij, u</b>	: 語幹 + <b>t</b>
<b>hij, ze/zij, het</b>	: 語幹 + <b>t</b>

<sup>16</sup> これらの規則は人工的なもので、たいていのオランダ人も誤用し、特に口語では、**hen** と **hun** の混用がある。

<sup>17</sup> 辞書の見出し語として載っている動詞の形。



we/wij	: 原形と同じ
jullie	: 原形と同じ
ze/zij	: 原形と同じ

上の手順を、**bakken**（焼く）、**werken**（働く）、**maken**（作る）、**reizen**（旅行する）、**verven**（塗る）の動詞で説明する。

まずは、手順の1から3を行う。

1.	bakken	werken	maken	reizen	verven
2.	bakk-	werk-	mak-	reiz-	verv-
3.	bak	werk	maak	reis	verf

人称・数に応じて活用すると次のとおりとなる（手順4）。

ik	bak	werk	maak	reis	verf
je/jij, u	bakt	werkt	maakt	reist	verft
hij, ze/zij, het	bakt	werkt	maakt	reist	verft
we/wij	bakken	werken	maken	reizen	verven
jullie	bakken	werken	maken	reizen	verven
ze/zij	bakken	werken	maken	reizen	verven

第2章で説明したように、主語と定形動詞の語順が、逆になることがある。倒置により主格の**je/jij**が動詞の後ろに来るとき、動詞は語幹+tではなく、tのない語幹となる。ただし、この規則はuには当てはまらない。

bak je/jij	werk je/jij	maak je/jij	reis je/jij	verf je/jij
bakt u	werkt u	maakt u	reist u	verft u

語幹が-tで終わる動詞は、語幹の末尾にさらに-tを付ける必要はない。一方、語幹が-dで終わる動詞は、（末尾の-dtの発音は/tとなるが）上述の規則に従い、語幹の末尾に-tを付けなければならぬ。**-dt**は/tと発音する。

これを**moeten**（～しなければならない）、**praten**（話す）、**zitten**（座る）、**worden**（～になる）、**bidden**（祈る）の動詞を用いて説明する。

手順の1から3を行う。

1.	moeten	praten	zitten	worden	bidden
2.	moet-	prat-	zitt-	word-	bidd-
3.	moet	praat	zit	word	bid

人称・数に応じて活用すると次のとおりとなる（手順4）。

ik	moet	praat	zit	word	bid
je/jij, u	moet	praat	zit	wordt	bidt
hij, ze/zij, het	moet	praat	zit	wordt	bidt
we/wij	moeten	praten	zitten	worden	bidden
jullie	moeten	praten	zitten	worden	bidden
ze/zij	moeten	praten	zitten	worden	bidden

主格が **je/jij** で倒置が起きているときの活用は、次のとおりとなる。

moet je/jij	praat je/jij	zit je/jij	word je/jij	bid je/jij
-------------	--------------	------------	-------------	------------

## 第5章 動詞（その2）不規則動詞の現在形

### a. **-en** ではなく、**-n** で終わる動詞

ここでは **gaan**（行く）、**slaan**（打つ）、**staan**（立つ）、**doen**（する、行う）、**zien**（見る）などの動詞について述べる。

まずは語幹を見つけるために、語尾の **-n** を取り除く。このあとの手順はあ、規則動詞と同じである。

1.	gaan	slaan	staan	doen	zien
2.	gaa-	slaa-	staa-	doe-	zie-
3.	ga	sla	sta	doe	zie

活用形は次のとおりとなる。

ik	ga	sla	sta	doe	zie
je/jij, u	gaat	slaat	staat	doet	ziet
hij, ze/zij, het	gaat	slaat	staat	doet	ziet
we/wij	gaan	slaan	staan	doen	zien
jullie	gaan	slaan	staan	doen	zien
ze/zij	gaan	slaan	staan	doen	zien
ただし、	ga je	sla je	sta je	doe je	zie je

## b. *Komen*

動詞 **komen** (来る) は、単数形では短母音、複数形では長母音となる。

ik	kom
je/jij, u	komt
hij, ze/zij, het	komt
we/wij	komen
jullie	komen
ze/zij	komen

## c. *Zijn* と *hebben*

動詞 **zijn** (ある、いる) と **hebben** (持っている) もまた、不規則変化をする動詞である。

ik	ben	heb
je/jij, u	bent	hebt
hij, ze/zij, het	is	heeft
we/wij	zijn	hebben
jullie	zijn	hebben
ze/zij	zijn	hebben

**u** については、**hebben** 2 人称単数 **hebt** と 3 人称単数 **heeft** の両方、すなわち **u hebt** と **u heeft** の両方が使われることに注意。<sup>18</sup>

## d. (法) 助動詞

最後に取り上げる不規則動詞群は、(法) 助動詞の **kunnen** (～できる)、**zullen** (～するだろう)、**mogen** (～してもよい)、**willen** (～したい) である。これらの現在形には単数と複数の 2 つの形しかない。

ik	kan	zal	mag	wil
je/jij, u	kan	zal	mag	wil
hij, ze/zij, het	kan	zal	mag	wil

---

<sup>18</sup> **u** の再帰代名詞の用法と比較すること。第 15 章参照。

we/wij	kunnen	zullen	mogen	willen
jullie	kunnen	zullen	mogen	willen
ze/zij	kunnen	zullen	mogen	willen

ただしこれらの動詞の2人称単数の活用には、-tの規則変化系もあり、特に公式のあらたまった文章体ではこの形が好まれる。

je/jij, u	kunt	zult	-	wilt
-----------	------	------	---	------

(法) 助動詞の **moeten** (～しなければならない) の活用は、前述のように現在形では規則変化である。

(法) 助動詞は、常に動詞の **te** を付けない不定詞 (原形不定詞) とともに用いることに注意。この原形不定詞は文末に来る。

Ik kan goed <b>zwemmen</b> .	私は上手く泳げます (泳ぎが得意です)。
Ik zal je morgen <b>bellen</b> .	私は明日あなたに電話をします。
Ik wil dit boek <b>lezen</b> .	私はこの本が読みたいです。

五巡については第19章で詳しく見る。**te** の付く不定詞、付けない不定詞については、第20章参照。

## 第6章 疑問文

疑問文には、定形動詞で始まり「はい」か「いいえ」で答えられる一般疑問文と、疑問詞で始まる特殊疑問文の2種類がある。

疑問文が定形動詞で始まる場合 (一般疑問文) では、主語は自動的に定形動詞の後ろつまり文の2番目の位置に置かれ、主語と定形動詞の倒置が起きる。

一般疑問文の例

<b>Komen</b> jullie vanavond?	あなたたちは今晚きますか?
<b>Studeer</b> jij in Leiden?	あなたたちはライデンで (大学で) 学んでいますか?
<b>Wachten</b> jullie op ons?	あなたたちは私たちを待っているのですか?
<b>Houden</b> jullie van muziek?	あなたたちは音楽が好きですか?

疑問文が疑問詞で始まる場合 (特殊疑問文) では、疑問詞が主語のとき以外は定形動詞は文の2番目、主語は3番目に来る。

疑問詞の種類

wie? <sup>19</sup>	誰？
wat?	何？
waar?	どこで？
welk(e)? <sup>20</sup>	どちら、どれ？
waarom?	なぜ？
wanneer?	いつ？
hoe?	どのように？

### 特殊疑問文の例

<b>Wie</b> is je docent?	あなたの先生は誰ですか？
<b>Wat</b> doe je morgen?	あなたは明日何をしますか？
<b>Waar</b> is de auto?	その車はどこですか？
<b>Welke</b> fiets is van jou? <sup>21</sup>	どの自転車があなたのですか？
<b>Welk</b> boek lees je?	あなたはどの本を読んでいますか？
<b>Welke</b> boeken koop je?	あなたはどの本を買いますか？
<b>Waarom</b> kom je niet?	あなたはなぜ来ないのですか？ (または来たらどうですか？)
<b>Wanneer</b> kom je?	あなたはいつ来ますか？
<b>Hoe</b> gaat het met je?	元気ですか？

疑問詞の **hoe** はほかの単語と組み合わせで使うこともできる。

hoeveel?	どのくらい、いくつ（数量、価格など）？
hoe lang?	どのくらい（時間、身長、その他長いものの長さ）？
hoe laat?	何時に？
hoe ver?	どのくらい（距離）？
hoe groot?	どのくらい大きい？
hoe klein?	どのくらい小さい？
など	

疑問詞はまた、前置詞と組み合わせで使うこともあり、次のように使いわけるときの

- ・ 疑問詞+ **wie** : 人についてたずねるとき
- ・ **waar** +前置詞 : 物についてたずねるとき<sup>22</sup>

### 例

<b>Aan wie</b> denk je?	あなたは誰のことを考えていますか？
<b>Waar</b> aan denk je?	あなたは何を考えているのですか？

<sup>19</sup> 疑問詞 **wie** が主語として用いられるとき、動詞は通常単数形となる。

<sup>20</sup> 疑問詞 **welk** は単数の **het** 名詞（中性名詞）、**welke** は **de** 名詞（男性名詞と女性名詞）およびすべての複数名詞に用いられる。形容詞の規則と同じである。形容詞については第 9 章参照。

<sup>21</sup> 所有を表す **van** + 人称名詞については第 15 章参照。

<sup>22</sup> 前置詞+ **Waar** よりも、実際には **wat**+前置詞が使われる。

**Waar denk je aan?**                      あなたは何を考えているのですか？

**Op wie wacht je?**                      あなたは誰を待っていますか？

**Waarop wacht je?**                      あなたは何を待っていますか？

**Waar wacht je op?**                      あなたは何を持っていますか？

「**waar** +前置詞」を組み合わせて1語にして、疑問文の文頭に使うこともあるが、**waar** を文頭に、前置詞は文末に置くほうが、より一般的である。

## 第7章 名詞

### a. 性

名詞の性は、定冠詞の **de** (男性名詞と女性名詞) と **het** (中性名詞) が表している。複数形では、すべての名詞が定冠詞として **de** をとる。名詞が男性名詞か女性名詞かはあまり重要ではないが、名詞が **de** 名詞か **het** 名詞かは、形容詞や指示代名詞や関係代名詞などの形 (後述) に関わってくるので、とても大切であり、名詞は冠詞もあわせて覚えなければならない。よい辞書では、性または **de** 名詞/**het** 名詞のどちらであるかが記されている。

複合名詞 (複数の名詞が結合して1語で書かれる名詞) の場合、最後尾にある名詞の性はその複合名詞の性となり、その結果その複合名詞の冠詞が決まる。

**het** huis + **de** deur =              **de** huisdeur              家 + ドア = 表玄関  
**de** oefening + **het** boek =        **het** oefeningenboek    練習 + 本 = 練習帳

### b. 複数形<sup>23</sup>

名詞の複数形の語尾には、**-s/-'s** と **-eren** と **-en** の3つがある。複数形の語尾が **-en** となる名詞が最も多く、**-eren** となる名詞はごく限られている。

<sup>23</sup> 数量単位では、複数形で使いそうな箇所に単数形を使うことがよくある (例: **3 euro** (3ユーロ)、**3 kilometer** (3キロメートル)、**3 jaar** (3歳、3年) など)。数量単位については付録Ⅲ参照。

## • -s/-'s となる複数形

2つ以上の音節から成り、強勢のない **-el**, **-em**, **-en**, **-er**, **-je** で終わる名詞は、複数形の語尾が **-s** となる。

de tafel	de tafels	テーブル
de bodem	de bodems	底
de wagen	de wagens	乗り物
de kamer	de kamers	部屋
het meisje	de meisjes	女の子

**-a**, **-é**, **-i**, **-o**, **-u**, **-y** で終わる名詞は、複数形の語尾が **-'s** か **-s** となる。

de opa	de opa's	おじいちゃん
de taxi	de taxi's	タクシー
de kilo	de kilo's	キロ (グラム)
de accu	de accu's	バッテリー (蓄電池)
de baby	de baby's	赤ちゃん
het café	de cafés	カフェ

アポロストロフィー「'」を使うのは、正しく発音されるようにするためである。アポロストロフィーを付けずに **opas** と発音すれば、(閉音節の中に母音字 1つとなるので) 短母音の /ă/ となる。アポロストロフィーを用いて **opa's** と表記することで、後ろの母音 **a** は、単数の場合と同じく、長母音となる。**taxi** (語末が長母音の /i/)、**kilo** (語末が長母音の /ō/)、**accu** (語末が長母音の /ū/)、**baby** (語末が長母音の /i/) も同様である。

ただし、**café** のような語では、語末の母音にすでに強勢 (アクセント) があり長母音として発音されるので、複数形で発音が変わらないようにするためのアポロストロフィーは不要となり、複数形は **cafés** となる。

## • -eren で終わる複数形

het kind	de kinderen	子供
het ei	de eieren	卵
het blad	de bladeren <sup>24</sup>	木の葉

## • -en で終わる複数形

de citroen	de citroenen	レモン
de kaart	de kaarten	地図、入場券
het park	de parken	公園

<sup>24</sup> 単数形では短母音だが、複数形では長母音に変わる。

het boek	de boeken	本
----------	-----------	---

次の単語のつづりに注意。

長母音がある場合

de minuut	de minuten	(時間の) 分
de tomaat	de tomaten	トマト
de week	de weken	週

短母音の場合

de bus	de bussen	バス
de kat	de katten	猫
de bel	de bellen	呼び鈴

**-ee** または強勢のある **-ie** で終わる名詞

het idee	de ideeën <sup>25</sup>	考え
de industrie	de industrieën	産業

通常は、語末の **f** は **v** に、**s** は **z** に変わる<sup>26</sup>

de golf	de golven	波
de brief	de brieven	手紙
de reis	de reizen	旅行
de kaas	de kazen	チーズ
het huis	de huizen	家
de prijs	de prijzen	値段

次のように **f** や **s** が変わらない語もある。

de fotograaf	de fotografen	写真家
de mens	de mensen	人
de wens	de wensen	願い
de kans	de kansen	機会
de dans	de dansen	ダンス
het kruis	de kruisen	十字架

<sup>25</sup> 一番最後の **-e** に付いているいわゆる分音符は、そこからが別音節であることを示している。i-dee-en。

<sup>26</sup> ただし、短母音のすぐ後ろでは変わらない。例：kas - kassen, straf - straffen



## • 特殊な例

短母音が長母音に変わる場合

de dag	de dagen	日、一日
het glas	de glazen	グラス
de weg	de wegen	道
het blad	de bladen <sup>27</sup>	雑誌

母音がこのほかの変化をする場合

het schip	de schepen	船
de stad	de steden	都市
de koe	de koeien	雄牛

## c. 指小語<sup>28</sup>

指小語（縮小後）は名詞に**-je**, **-tje**, **-pje**, **-etje**, **-kje**などを付けて作る。

het boek	het boekje	本
de brief	het briefje	手紙、メモ
de jas	het jasje	上着
het verhaal	het verhaaltje	物語
de schoen	het schoentje	靴
de vrouw	het vrouwtje	女の人
de duw	het duwtje	押すこと、一押し
het ei	het eitje	卵
de auto	het autootje	自動車
de boom	het boompje	樹木
de film	het filmpje	映画、（写真の）フィルム
de man	het mannetje	男の人
de ring	het ringetje	指輪
de bal	het balletje	ボール
de weg	het weggetje	道、小道
de koning	het koninkje	王

<sup>27</sup> **blad** という語には、**bladeren**（木の葉）と、**bladen**（雑誌など）の2つの複数形がある。

<sup>28</sup> 指小語の語尾を選ぶ際の規則はかなり複雑なので、ここではいくつかの例を挙げるにとどめる。

指小辞の付いた名詞はすべて **het** 名詞となる。複数形にはすべて **s** が付く。

## 8. 冠詞<sup>29</sup>

オランダ語には、定冠詞と不定冠詞の 2 種類の冠詞がある。定冠詞には **de** と **het** の 2 つがあり、不定冠詞は **een**<sup>30</sup>のみである。

定冠詞の **de** と **het** は後ろに来る名詞が「特定」のものであることを示す。定冠詞 **de** は単数形の男性名詞と女性名詞に、**het** は単数形の中性名詞に用いられる。複数形ではすべて、定冠詞に **de** を用いる。

de school	de scholen	学校
het huis	de huizen	家

不定冠詞 **een** の後ろに来る名詞は「不特定」となる。不定冠詞は、後ろに来る名詞の性を問わず単数のみに用い、複数では付かない。

Daar zit een man.	向こうに男の人が座っています。
Daar zitten mannen.	向こうに男の人たちが座っています。

不可算名詞（物質名詞）には、不定冠詞は用いない。<sup>31</sup>

Is er nog koffie?	コーヒーはまだありますか？
Wil je suiker in je thee?	あなたは紅茶に砂糖がほしいですか？ (砂糖を入れますか？)

次のような場合もまた、不定冠詞は用いない。

Jan is Nederlander.	ヤンはオランダ人です。
Hij is lid van een voetbalclub.	彼はサッカークラブのメンバーです。
Juan is buitenlander.	フアンは外国人です。
Hij is docent Engels.	彼は英語の先生です。

<sup>29</sup> オランダ語には、もはや格（主格、属格、与格、対格、奪格）はないが、その名残がいくらか残っている。冠詞に関するものでは、**'s morgens**（午前）、**'s middags**（午後）、**'s zomers**（夏）など副詞的に用いられる表現の**'s**がある。この**'s**は、かつての定冠詞の属格（所有格）**des**の省略形である。名詞のほうの接尾辞**'s (des morgens - 's morgens)**にも属格の名残が表れている。

<sup>30</sup> 不定冠詞の **een**（あるひとつの、英語の a/an）と、数詞の **een (1)**を混同しないこと。これらは発音も異なる。不定冠詞の **een** は非強勢母音（英語の the の e の音に近い）であるが、数詞の **een** は強勢母音（長くはっきりとした /e/ の音）である。

<sup>31</sup> 不可算（物質）名詞の例：**gas**（ガス）、**koffie**（コーヒー）、**olie**（油）、**zilver**（銀）、**water**（水）など

## 9. 形容詞

形容詞の使い方には、それだけ単独で用いる用法（叙述用法）と、名詞の前に用いる用法（限定用法）の2つがある。

### • それだけ単独で用いる場合（叙述用法）

それだけ単独で用いるとき、形容詞は原形のまま使う。

De school is groot.	その学校は大きいです。
Die scholen zijn groot.	あれらの学校は大きいです。
Ik vind die school groot.	私はあの学校は大きいと思います。
Het huis is mooi.	その家はすてきです。
Die huizen zijn mooi.	あれらの家はすてきです。
Ik vind dat huis mooi.	私はあの家はすてきだと思います。

### • 名詞の前に用いる場合（限定用法）

形容詞は、その名詞の前に置かれるときには語尾変化をする。ほとんどの場合、語尾**-e**を付けることになる。その際必要であればつづりを修正する。

de 名詞		het 名詞	
単数	複数	単数	複数
de grote school	de grote scholen	het mooie huis	de mooie huizen
een grote school	grote scholen	een <b>mooi</b> huis	mooie huizen

上の表からわかるように、名詞の前に置く形容詞には、次の3つの条件のすべてにあてはまる場合を除いて、必ず**-e**を付けなければならない。

1. その名詞が **het** 名詞のとき
2. その名詞が単数のとき
3. 不定冠詞 **een**<sup>32</sup> が用いられるときか、冠詞が用いられない時<sup>33</sup>

ただし次のような一部の形容詞には、**-e**が付かない。

- 物質形容詞（語尾が**-en**で終わるものが多い）  
gouden（金製の）、katoenen（木綿の）、plastic（プラスチックの）、aluminium（アルミの）
- 過去分詞で語尾が**-en**で終わるもの  
gebakken（焼いた）、gesloten（閉まった）

<sup>32</sup> 不定冠詞の否定形 **geen**（否定については第10章参照）のときも同様である。以下を比較すること：een grote stad - geen grote stad / een groot huis - geen groot huis

<sup>33</sup> 例えば、Prettig weekend!（よい週末を!）の場合と、不可算の het-名詞の場合。例：Mmmm, lekker bier!（ああ、うまいビールだ!）

- ・語尾が**-en** で終わる若干数の形容詞

eigen (自分の)、open (開いている)、tevreden (満足している)、verleden (過去の)

例

de gouden ring	金の指輪
het aluminium frame	アルミ製の枠
de gesloten deur	閉まっている扉
het gebakken brood	焼き上がったパン
mijn eigen huis	私の自宅
de tevreden klant	満足している客

## 比較級と最上級

- ・比較級と最上級の作り方

比較級を作るには、形容詞に**-er** を付ける。**-r** で終わる形容詞には、**-der** を付ける。最上級を作るには、**-st(e)** を付ける。

形容詞		比較級	最上級
mooi	すてきな	mooier	mooist(e)
groot	大きい	groter	grootst(e)
klein	小さい	kleiner	kleinst(e)
duur	高価な	duurder	duurst(e)

- ・それだけ単独で用いる場合 (叙述用法)

形容詞 (原級) と同じように、それだけ単独で用いる比較級や最上級には、語尾の**-e** は付かない。

De school is groot.	その学校は大きいです。
Deze school is groter.	この学校のほうが大きいです。
Deze school is het grootst. <sup>34</sup>	この学校は最も大きいです。

Het huis is mooi.	その家はすてきです。
Dit huis is mooier.	この家のほうがすてきです。
Dit huis is het mooist.	この家は一番すてきです。

- ・名詞の前に用いる場合 (限定用法)

<sup>34</sup> 口語体では、**-e** が付くことがよくある。

形容詞の比較級が名詞の前に来るときには、形容詞（原級）の規則に従って語尾の**-e** を付ける。

de 名詞		het 名詞	
単数	複数	単数	複数
de grotere school	de grotere scholen	het mooiere huis	de mooiere huizen
een grotere school	grotere scholen	een <b>mooier</b> huis	mooiere huizen

形容詞の最上級が名詞の前に来るときは、必ず語尾の**-e** を付ける。

de 名詞		het 名詞	
単数	複数	単数	複数
de grootste school	de grootste scholen	het mooiste huis	de mooiste huizen

### • 比較の構文

比較をするとき、接続詞には **dan**（～よりも）を使う。

Deze school is groter <b>dan</b> die school.	この学校はあの学校よりも大きいです。
Dit huis is mooier <b>dan</b> dat huis.	この家はあの家よりもすてきです。

次の構文を使って比較することもできる。

Deze school is <b>tweemaal zo groot als</b> die school.	この学校はあの学校の2倍の大きさです。
Dit huis is <b>tien keer zo mooi als</b> dat huis.	この家はあの家の10倍すてきです。

比較するものの程度が同じときは、**even ... als, net zo ... als**（～と同じぐらい…）や **even ...**（～と等しく…）の構文を使う。

Deze school is <b>even groot als</b> die school.	この学校はあの学校と同じぐらいの大きさです。
Deze scholen zijn <b>even groot</b> .	これらの学校は同じぐらいの大きさです。
Dit huis is <b>net zo mooi als</b> dat huis.	この家はあの家と同じぐらいすてきです。
Deze huizen zijn <b>even mooi</b> .	これらの家は同じぐらいすてきです。

### • 不規則変化

比較級・最上級の変化が不規則なものが若干あり、形容詞や副詞として用いられる。

形容詞/副詞		比較級	最上級	同等比較
goed	よい	beter	het best(e)	even goed als
veel	多くの、多数の	meer	het meest(e)	even veel als
weinig	少しの、少数の	minder	het minst(e)	even weinig als
graag <sup>35</sup>	喜んで	liever	het liefst(e)	even graag als

## 第 10 章 否定

オランダ語で否定表現を作る語には **geen** と **niet** の 2 つがある。 **geen** は特別な場合にだけ使われるので、まずは **geen** から説明する。

### a. geen

**geen** は、肯定文なら不定冠詞 (**een**) を使う文か、または冠詞のない文の否定に用いられ、名詞の前に来る。その名詞は必ず「不特定」となる。<sup>36</sup>

名詞が不特定なのは、次の場合である。

- その名詞の前に不定冠詞の **een** があるとき

Heb jij <b>een euro</b> voor mij?	(1) ユーロ硬貨がありますか。
Nee, ik heb <b>geen euro</b> voor je.	いいえ、(1) ユーロ硬貨は持っていません。

- 冠詞が付いておらず、複数形であるとき

Hij geeft haar <b>bloemen</b> .	彼は彼女に花を贈ります。
Hij geeft haar <b>geen bloemen</b> .	彼は彼女に花を贈りません。

- 冠詞のついていない不可算 (物質) 名詞<sup>37</sup>のとき

Wil je <b>suiker</b> in je koffie?	あなたはコーヒーに砂糖がほしいですか? (砂糖を入れますか?)
Nee, ik wil <b>geen suiker</b> .	いいえ、砂糖入りません。

<sup>35</sup> 副詞としてのみ用いられる。例：Ik drink graag thee, maar Jan drinkt liever/het liefst koffie (私はお茶が好きですが、ヤンはコーヒーのほうが好きです。)

<sup>36</sup> 冠詞と、名詞を特定する (または不特定にする) 冠詞の働きについては第 8 章参照。

<sup>37</sup> 不可算 (物質) 名詞の例： **gas** (ガス)、 **koffie** (コーヒー)、 **olie** (油)、 **zilver** (銀)、 **water** (水) など

**moeten** を「不特定」の名詞とともに用いている場合、その日提携は、**hoeven + geen + 名詞 + te + 不定詞**となる。

Moet je **huiswerk** maken?                      あなたは宿題をしなければなりませんか。  
Ik **hoef geen huiswerk te maken.**              私は宿題をする必要はありません。

## b. *Niet*

**niet** を置く位置については次の7つの規則がある。2つ以上に該当するときは、後のほうにある規則に従う。

**Niet** を置く位置は

1. 定形動詞の後ろ
2. **er, hier, daar** の後ろ
3. 時の表現の後ろ
4. 「特定」された目的語の後ろ<sup>38</sup>
5. 形容詞の前
6. 前置詞句の前<sup>39</sup>
7. 副詞の前<sup>40</sup>

それぞれの規則についての例

- |   |   |
|---|---|
| 1. <b>Rook jij?</b><br>Nee, ik <b>rook niet.</b>                              | あなたはタバコを吸いますか?<br>いいえ、私は吸いません。                        |
| <b>Studeren</b> jullie?<br>Nee, wij <b>studeren niet.</b>                     | あなたたちは大学で学んでいますか?<br>いいえ、大学で学んではいません。                 |
| 2. <b>Woon jij hier?</b><br>Nee, ik woon <b>hier niet.</b>                    | あなたはここに住んでいますか?<br>いいえ、ここに住んではいません。                   |
| Je woont in Leiden.<br><b>Werk je er ook?</b><br>Nee, ik werk <b>er niet.</b> | あなたはライデンに住んでいます。<br>そこで仕事もしていますか?<br>いいえ、そこで働いてはいません。 |

<sup>38</sup> 目的語は、定冠詞 **de/het**、指示代名詞、所有代名詞によって特定できる。**Jan** などの固有名詞もまた特定された目的語となる。

<sup>39</sup> 前置詞については付録 V 参照。

<sup>40</sup> 副詞については付録 VI 参照。

3. Komen jullie **morgen**? あなたたちは明日来ますか?  
Nee, wij komen **morgen niet**. いいえ、明日は行きません。
- Ga je **vanavond** weg? あなたは今夜出発しますか?  
Nee, ik ga **vanavond niet** weg. いいえ、今夜は発ちません。
4. Ken jij **Jan Janssen**? あなたはヤン・ヤンセンを知っていますか?  
Nee, ik ken **Jan Janssen niet**. いいえ、ヤン・ヤンセンを知りません。
- Geef je hem **dat boek**? あなたは彼にあの本をあげますか?  
Nee, ik geef hem **dat boek niet**. いいえ、彼にあの本をあげません。
5. Is jouw jas **groen**? あなたのコートは緑ですか?  
Nee, mijn jas is **niet groen**. いいえ、私のコートは緑ではありません。
- Ben je **moe**? あなたは疲れていますか?  
Nee, ik ben **niet moe**. いいえ、疲れていません。
6. Ga je **naar Amsterdam**? あなたはアムステルダムに行きますか?  
Nee, ik ga **niet naar Amsterdam**. いいえ、アムステルダムには行きません。
- Gaan we **bij Jan** eten? 私たちはヤンの家に夕食を食べに行きますか?  
Nee, we gaan **niet bij Jan** eten. いいえ、ヤンの家に夕食を食べにはいきません。
7. Werken jullie **hard**? あなたたちは熱心に取り組んでいますか?  
Nee, wij werken **niet hard**. いいえ、熱心に取り組んでいません。
- Kijk je **graag** naar de tv? あなたはテレビを見るのが好きですか?  
Nee, ik kijk **niet graag** naar de tv.<sup>41</sup> いいえ、テレビを見るのは好きではありません。

**moeten** を「特定」された名詞とともに用いている場合、その否定形は、**hoeven** + 名詞 + **niet** + **te** + 不定詞となる。

**Moet** jij **dit boek** ook kopen? あなたはこの本も買わなければなりませんか。  
Nee, ik **hoef dit boek niet te kopen**. いいえ、この本を買う必要はありません。

<sup>41</sup> 規則 6 では **niet** は前置詞句の前に置くことにあるが、副詞の前に置く規則 7 が優先される。



## 第 11 章 代名詞 (その 2) 指示代名詞

オランダ語には **deze/dit** と **die/dat** の 4 つの指示代名詞があり、話し手と、この話し手が話題にしている物または人との距離の遠近を示す。指示代名詞を名詞の前に使うには、その名詞が **de** 名詞であるか、**het** 名詞かがわかっていなければならない。

	近い		遠い	
	<b>de</b> 名詞	<b>het</b> 名詞	<b>de</b> 名詞	<b>het</b> 名詞
singular	deze	dit	die	dat
plural	deze	deze	die	die
単数	deze deur	dit huis	die deur	dat huis
複数	deze deuren	deze huizen	die deuren	die huizen

指示代名詞は、前に述べられた人や物を指すのに、それだけ単独でも用いられる、付録 VII 参照。

## 第 12 章 *er*

**er** はさまざまな使われ方をするが、最も重要な役割は次のものである。

- daar** や **hier** の弱化した **er**
- er** + 「不特定」の主語
- er (daar)** + 前置詞
- er** + 数量詞<sup>42</sup>

### a. *daar* や *hier* の弱化した *er*

**er** の第 1 の用法は、場所を指す語として使われることである。**er** が **daar** (そこに)、**hier** (ここに) の弱化した形として使われていれば、その場所がさして重要な意味を持たないことを示している。

<sup>42</sup> 受動文主語としての **er** の用法については、第 22 章参照。

**er** は定形動詞の後ろに来るが、定形動詞の後ろに人称代名詞があるときは、その人称代名詞のあとに置く。**daar** や **hier** は場所を強調するときに用いる。**daar** や **hier** を文頭に持ってくると、さらに強調の意味合いが強まる。次の例の語順に注意。

### **daar (hier)** と **er** の違いの例

Woon je in Leiden? Ik woon al tien jaar in Leiden. Ik woon <b>er</b> al tien jaar. <sup>43</sup> <b>Daar</b> woon ik al tien jaar.	あなたはライデンに住んでいますか。 私はもう 10 年ライデンに住んでいます。 私はもう 10 年そこに住んでいます。 私はそこにはもう 10 年住んでいます。
Heb je Peter in de tuin gezien? Ja, ik heb hem in de tuin gezien. Ik heb hem <b>er</b> gezien. <sup>44</sup> <b>Daar</b> heb ik hem gezien.	ペーターを庭で見かけましたか？ ええ、私は彼を庭で見かけました。 私は彼をそこで見かけました。 私はそこで彼を見かけました。

### b. *Er* + 「不特定」の主語

文章の主語が不特定るとき（特定の物や人でないとき）、**er** を仮の主語として文頭に置き、それから真主語を述べる。例では真主語を太字で示している。動詞の位置は通常どうり文の 2 番目となる。

主語が不特定なのは、次の場合である。

- 名詞の前に不定冠詞 **een** があるとき

Er loopt <b>een kind</b> in het park. Er ligt <b>een boek</b> op tafel.	子供がその公園を歩いています。 テーブルの上に本が（一冊）あります。
--	---------------------------------------

- 名詞に冠詞が付いておらず、かつその名詞が複数形であるとき

Er spelen <b>kinderen</b> in het park. Er liggen <b>boeken</b> op tafel.	子供たちがその公園で遊んでいます。 テーブルの上に本が（数冊）あります。
---	---

- 名詞が冠詞の付いていない不加算（物質）名詞<sup>45</sup>のとき

Er staat <b>koffie</b> op tafel. Er zit <b>suiker</b> in deze pot.	テーブルの上にコーヒーがあります。 この容器には砂糖が入っています。
---	---------------------------------------

<sup>43</sup> ここでの **er** = in Leiden。 **er** は定形動詞の後ろに来る。

<sup>44</sup> ここでの **er** = in de tuin。 **er** は人称代名詞 **hem** の後ろに来る。

<sup>45</sup> 不加算（物質）名詞の例: **gas** (ガス)、**koffie** (コーヒー)、**olie** (油)、**zilver** (銀)、**water** (水) など

- 名詞の前に **geen** があるとき

Er is **geen thee** meer. 紅茶はもうありません  
 Er zijn **geen studenten** in dit lokaal. この教室に生徒はいません。

- 名詞の前に数詞があるとき

Er zitten **tien studenten** in deze klas. この教室には生徒が 10 人（着席して）います。  
 Er lopen **vijf kinderen** buiten. 子供が 5 人外を歩いています。

- 名詞の前に **veel**（多くの）、**genoeg**（十分な）、**weinig**（少しの）などの数量を表す語があるとき

Er is **veel vraag** naar dit boek. この本には大きな需要があります。  
 Er is **weinig verkeer** vandaag. 今日は交通が少ないです（道がすいています）。  
 Er zijn **veel kinderen** in het park. その公園には子供が大勢います。

- 主語に **iets**（何かある物/こと）、**niets**（何も～ない）、**iemand**（誰か）、**niemand**（誰も～ない）などの不定代名詞が含まれているとき

Er ligt **iets lekkers** op tafel. テーブルにおいしいそうな物（おやつ）があります。  
 Er gebeurt **helemaal niets**. 全く何も起きていません。  
 Er is **niemand** aanwezig. 誰もいません。

### c. *Er (daar)* + 前置詞

名詞や名詞群は、前置詞とともに用いられて、前置詞句となる。

Ik houd **van Franse films**. 私はフランス映画が好きです。

**van Franse films** という前置詞句について触れるとき、**er** + 前置詞を用いる。そのとき **Er** は、名詞や名詞群の代わりとなる。ただし、この **er** + 前置詞は物を指す場合のみに使い、人を指すことはない。<sup>46</sup>

Ik houd **ervan**.<sup>47</sup> 私はそれらが好きです。

**er (daar)** + 前置詞は、文中で 1 語として表記されることもあるが、前置詞が **er** と分離することも多い。その場合前置詞は文末に置かれるが、必ず最後の動詞（群）の前に来る。

<sup>46</sup> 人を指すのには、人称代名詞を用いる。例: Ik houd van mijn kinderen (私は自分の子供たちを愛しています。) → Ik houd van hen/ze (私は彼らを愛しています。)

<sup>47</sup> ここでの **ervan** = van Franse films。

Ik houd **er** veel **van**.  
Ik heb **er** altijd veel **van** gehouden.

私はそれらが大好きです。  
私はずっとそれらが大好きでした。

**Er** はまた **daar** に置き換えられるが、その置き換えられた **daar** は強調のために文頭に置かれる。

**Daarvan** heb ik altijd veel gehouden.  
**Daar** heb ik altijd veel **van** gehouden.

それらが私はずっと大好きでした。  
それらが私はずっと大好きでした。

前置詞 **met** は **er** や **daar** とともに使うとき **mee** に変わることには注意。

Ik begin **met mijn studie**.  
Ik begin **ermee**.  
Ik begin **er** volgend jaar **mee**.  
Ik kan **er** volgend jaar **mee** beginnen.  
**Daarmee** begin ik volgend jaar.  
**Daar** begin ik volgend jaar **mee**.

私は（大学などでの）勉強を始めます。  
私はそれを始めます。  
私は来年それを始めます。  
私は来年それを始めることができます。  
それを私は来年始めます。  
それを私は来年始めます。

次の前置詞もまた、**er** とともに用いられるときに変化する。

- **er + naar** は、**ernaartoe / erheen** に変わる。(たいてい動詞 **gaan** とともに使い、行き先を示す)。
- **er + uit** は、**ervandaan** に変わる(たいてい動詞 **komen** とともに使い、原点や起点を示す)。

Ik ga **naar Frankrijk**.  
Ik ga **er** morgen **naartoe**.<sup>48</sup>  
Ik kom **er** net **vandaan**.<sup>49</sup>  
**Daar** kom ik net **vandaan**.

私はフランスに行きます。  
私は明日そこへ行きます。  
私はちょうどそこから戻ってきたところです。  
そこから私は今戻ってきたところです。

#### d. *Er* + 数量詞

名詞が数量詞とともに使われているとき、名詞の代わりに **er** を用いることができる。**Er** の位置に注意。

Hoeveel kinderen heb je?  
Ik heb **drie kinderen**.  
Ik heb **er drie**.

あなたは子供が何人いますか？  
私は子供が3人います。  
3人います。

Heb jij veel cd's?  
Ja, ik heb **veel cd's**.  
Ja, ik heb **er veel**.

あなたはCDをたくさん持っていますか？  
はい、私はCDをたくさん持っています。  
はい、たくさん持っています。

<sup>48</sup> ここでの **er (...)** **naartoe** = naar Frankrijk。

<sup>49</sup> ここでの **er (...)** **vandaan** = uit Frankrijk。

Hebt u een auto?  
Nee, ik heb **geen auto**.  
Nee, ik heb **er geen**.

あなた（丁寧）は車をお持ちですか？  
いいえ、私は車は持っていません。  
いいえ、私は持っていません。

## 第13章 動詞（その3）命令法

人に何かをするよう指図したり仕向けたりしたいときには命令法を使う。  
通常は動詞の語感を用いるが、この形はくだけた命令表現の印象がある。

Houd je mond!	黙れ！
Blijf hier!	ここにいろ！
Schiet op!	急げ！
Kom hier!	来い！

また、定形動詞のあとに **u** (敬称)や **jij** (親称)を付けて命令法に用いることもできる。

Komt u toch <sup>50</sup> hier!	どうぞこちらにおいで下さい！
Blijft u toch hier!	どうぞそこにそのままいらして下さい！
Gaat u maar zitten.	どうぞおかけ下さい！
Kom jij eens hier!	ちよっとこっちに来て！
Blijf jij even hier!	ちよっとここにいて！

一般標識や掲示文など不特定多数への指示には、原形不定詞が使われる。

Niet roken	禁煙
Hier bellen	呼び鈴を鳴らしてください。

## 第14章 動詞（その4）姿勢を表す動詞

ものや人の実際の位置を指し示すとき、中立動詞 **zijn** ではなく、姿勢維持動詞を用いる。置き換わる姿勢維持動詞には、**staan**, **liggen**, **zitten**, **hangen** の4つがある。

**staan** は、直立していて、（少し触れると）倒れそうなものに使う。

---

<sup>50</sup> **eens**, **maar**, **even**, **toch** などの語は、命令口調を和らげるために使われる。

Het glas **staat** op tafel.  
De klok **staat** op de kast.  
De boom **staat** voor het huis.  
Er **staan** boeken op de plank.

そのグラスはテーブルの上にあります。  
その時計はその戸棚の上にあります。  
その木はその家の前に立っています。  
その棚の上に本があります。

**liggen** は、面に横たわり、倒れないものに使う。

Het boek **ligt** op tafel.  
Het kind **ligt** in bed.  
Er **ligt** een krant op de grond.  
De sleutels **liggen** op de plank.

その本はテーブルの上にあります。  
その子はベッドに（横になって）います。  
地面に新聞があります（落ちています）。  
その鍵（の束）はその棚の上にあります。

**zitten** は、狭いところに入っているものに使う。

Het geld **zit** in mijn zak.  
Er **zit** geen suiker in de pot.  
Mijn paspoort **zit** in jouw tas.  
De sleutels **zitten** in mijn zak.

そのお金は私のポケットにあります。  
その容器に砂糖は入っていません。  
私の旅券あなたのかばんに入っています。  
その鍵は私のポケットの中に入っています。

どこかに掛かっている物やつり下がっているものには **hangen** を用いる。

Er **hangt** een schilderij aan de muur.  
In de badkamer **hangt** een spiegel.  
De sleutels hangen aan het haakje.

壁に絵がかかっています。  
浴室に鏡がかかっています。  
カギはフックにかかっています。

動詞 **staan, liggen, zitten, hangen** はまた、**te** + 不定詞とともに用いて2つの同時進行する動作を表す、5つの動詞の一部でもある。第20章(c)参照。

## 第15章 代名詞（その3）所有代名詞、再帰代名詞、相互代名詞

ここで人称代名詞をもう一度概観し、全体像を見ておく。

人称代名詞 主格	人称代名詞 目的格	所有代名詞	再帰代名詞
ik	me/mij	mijn	me
je/jij	je/jou	je/jouw <sup>51</sup>	je
u	u	uw	u/zich <sup>52</sup>

<sup>51</sup> 所有代名詞 **je** は、非強調形の人称代名詞 **je** に対応し、**jouw** は、強調形の人称代名詞 **jij** と **jou** に対応している。

<sup>52</sup> **zich** は、3人称単数と複数の形であるが、ふつう敬称の **u** にも使われる。第5章の **u hebt/u heeft** と比較すること。

hij	hem	zijn	zich
ze/zij	haar	haar	zich
het	het	zijn	zich
we/wij	ons	ons/onze <sup>53</sup>	ons
jullie	jullie	jullie	je
ze/zij	ze/hen/hun <sup>54</sup>	hun	zich

所有代名詞は名詞の前に置く。このほかたとえば、『前置詞 **van** + 人称代名詞の目的格』などで所有を表すこともできるが、その場合は、所有の意味合いが強調される。

Dit is mijn boek.                      これは私の本です。  
Dit boek is **van mij**.                この本は私のものです。

Dit zijn onze boeken.                これらは私たちの本です。  
Deze boeken zijn **van ons**.        これらの本は私たちのものです。

再帰代名詞は、動詞とともに使われることが多い。再帰動詞の例としては、**zich wassen** (体を洗う)、**zich scheren** (ひげをそる)、**zich schamen** (恥じる)、**zich vergissen** (間違える)、**zich bukken** (身をかがめる)、**zich voelen** (感じる) などがある。

Ik was **me** in de rivier.              私は川で体を洗います。  
Nee, jij vergist **je**.                  いいえ、あなたは誤解しています。  
Hij scheert **zich** elke dag.        私は毎日ひげをそります。  
Wij voelen **ons** heerlijk!          私たちはとても気分がいいです！

**bij zich hebben** (～を今持ってきている) のように、再帰代名詞は前置詞の後ろにも用いられる。

Ik heb geld **bij me**.                  私はお金を持ってきてます。  
Jij hebt geld **bij je**.                あなたはお金を持ってきています。  
Hij heeft geld **bij zich**.            彼はお金を持ってきています。  
Wij hebben geld **bij ons**.          私たちはお金を持ってきています。  
Jullie hebben geld **bij je**.        あなたたちはお金を持ってきています。  
Zij hebben geld **bij zich**.        彼らはお金を持ってきています。

1 人称、2 人称、3 人称とも、複数の相互代名詞は **elkaar** (互いに) となる。

Wij begroeten **elkaar**.              私たちはあいさつを交わします。  
Jullie lijken op **elkaar**.            あなたたちは互いに似ています。  
Zij houden van **elkaar**.            彼らは愛しあっています。

<sup>53</sup> het 名詞の単数形には **ons** を使い、de 名詞と複数形のすべてには **onze** を用いる。

<sup>54</sup> 人称代名詞 hun は間接目的語としてのみ用いられる。第3章と比較すること。

## 第 16 章 動詞（その 5）規則動詞の過去形

オランダ語では、過去時制は、おとぎ話から日常の経験まで、主に話を伝えるときに用いる。

Er **was** eens een prins ... 昔、ある所に王子さまがいました…  
en ze **leefden** nog lang en gelukkig. そして彼らは末永く幸せに暮らしました。

Ik **was** in de stad, **liep** over een 私は町に出て広場を横切っていて、そのとき  
plein en toen **gleed** ik uit over バナナの皮を踏んで滑ってしまいました。  
een bananenschil.

Vroeger **dronk** ik elke dag melk. 私は毎日牛乳を飲んでいました。  
Dat **vond** ik erg lekker. 私は牛乳が大好きでした。

規則動詞の過去形を作るには、ただ規則に従えばよい。現在形と同じく、まずは原形不定詞から始め、語尾の **-en** を取り除く（手順 1 と 2）。

ここで新しく説明する手順 3 が重要である。動詞（原形）から語尾の **-en** を取った残りの最後の文字に応じて、過去形語尾の **-te(n)** か **-de(n)** を選ぶ。

・ **-te(n)** が付くのは、**-en** を取った残りの最後の文字が **-ch, -f, -k, -p, -s, -t**（「soft ketchup の子音」と覚えると便利である）の場合。

・ 母音も含めて、それ以外の場合には、**-de(n)** が付く。

さらに必要に応じてつづりを修正し（手順 4）、過去形の語尾を付ける（手順 5）。語尾は、単数のときは **-te** か **-de**、複数のときは **-ten** か **-den** のみである。

その手順は次にとおりとなる。

1. 動詞の原形（不定詞）から始める。
2. 語尾の **-en** を取り除く。
3. 動詞の残りの最後の文字から、（前述の）「soft ketchup」の法則で、**-te(n)** か **-de(n)** のどちらを付けるかを確認する。
4. 動詞の残りが次に該当する場合はつづりを修正する。
  - a. 長母音であるべき母音字のすぐ後ろに子音がある場合は、同じ母音字を 1 つ追加する。
  - b. 末尾に同じ子音字が 2 つ重なっているときはそのうち 1 つを取り除く。
  - c. 末尾の **z** を **s** に変える。
  - d. 末尾の **v** を **f** に変える。こうしてその動詞の語幹ができる。
5. 人称・数に応じて活用形を作る。

ik	: 語幹 + <b>-te/-de</b>
je/jij, u	: 語幹 + <b>-te/-de</b>
hij, ze/zij, het	: 語幹 + <b>-te/-de</b>



we/wij : 語幹 + **-ten/-den**  
 jullie : 語幹 + **-ten/-den**  
 ze/zij : 語幹 + **-ten/-den**

上の手順を、**maken**（作る）、**maaien**（芝を刈る）、**lachen**（笑う）、**vissen**（釣りをする）、**straffen**（罰する）で説明する。

まず手順の1から4までを行う

1.	maken	maaien	lachen	vissen	straffen
2.	mak-	maai-	lach-	viss-	straff-
3.	<b>-k</b>	<b>-i</b>	<b>-ch</b>	<b>-s</b>	<b>-f</b>
4.	maak	maai	lach	vis	straf

人称・数に応じて活用すると次のとおりとなる（手順5）。

ik	maakte	maaide	lachte	viste	strafte
je/jij, u	maakte	maaide	lachte	viste	strafte
hij, ze/zij, het	maakte	maaide	lachte	viste	strafte
we/wij	maakten	maaiden	lachten	visten	strafden
jullie	maakten	maaiden	lachten	visten	strafden
ze/zij	maakten	maaiden	lachten	visten	strafden

動詞から **-en** を取った残りの最後の文字がすでに **d** や **t** であっても、規則に従い上の手順を行う。**planten**（植える）**leiden**（導く）で比較する。

1.	planten	leiden
2.	plant-	leid-
3.	<b>-t</b>	<b>-d</b>
4.	plant	leid

手順5:

ik	plantte	leidde
je/jij, u	plantte	leidde
hij, ze/zij, het	plantte	leidde
we/wij	plantten	leidden
jullie	plantten	leidden
ze/zij	plantten	leidden

結果として子音字が重複しても、2つの子音のように発音するため、複数形については、現在形 (wij planten, wij leiden) と過去形 (wij plantten, wij leidden) は同じに聞こえる。

つづりの修正をする前に先に上記3の手順を踏むことが重要である例として、次の **verhuizen**（引っ越す）と **beloven**（約束する）を見ることにする。

1.	verhuizen	beloven
2.	verhuiz-	belov-
3.	<b>-z</b>	<b>-v</b>
4.	verhuis	beloof

手順 5 :

ik	verhuis <b>de</b>	beloof <b>de</b>
je/jij, u	verhuis <b>de</b>	beloof <b>de</b>
hij, ze/zij, het	verhuis <b>de</b>	beloof <b>de</b>

we/wij	verhuis <b>den</b>	beloof <b>den</b>
jullie	verhuis <b>den</b>	beloof <b>den</b>
ze/zij	verhuis <b>den</b>	beloof <b>den</b>

つづりの修正を急ぐと、正しい過去形 **ik verhuisde** と **ik beloofde** にならずに、誤った過去形 \* **ik verhuiste** と \* **ik beloofte** となってしまう。

## 第 17 章 動詞（その 6）規則動詞の完了形

過去に怒った特定の活動や状況（の重要性）を強調したいとき、完了形が使われる。オランダ語では、単純過去形よりも完了形のほうが頻繁に用いられる。

Waar **heb** je **gestudeerd**?                      あなたはどこの大学で勉強しましたか。  
Ik **heb** in Leiden **gestudeerd**.                      私はライデンで勉強しました。

Waar **heb** je je man **ontmoet**?                      あなたはどこでご主人と出会いましたか。  
Ik **heb** hem in Leiden **ontmoet**.                      私は彼とライデンで出会いました。

完了形は「助動詞」と「過去分詞」からなる。完了形に使う助動詞は **hebben** か **zijn** で、これらの助動詞が現在形で用いられているときは現在完了時制を、過去形の場合は過去完了時制を表している。

まずは、規則動詞の過去分詞を作る。

### a. 過去分詞

規則動詞の過去分詞は、語幹とその前の接頭辞 **ge-**、語幹の後ろの語尾 **-t** または **-d** からなる。

過去形の場合と同じように、「**soft ketchup**」の法則を使い、動詞の原形から語尾の**-en**を取った残りの最後の文字がこれらの子音のどれかならば**-t**を、それ以外の場合は**-d**を過去分詞の語尾として付ける。

その手順は次のとおりである。

1. 動詞の原形（不定詞）から始める。
2. 語尾の**-en**を取り除く。
3. 動詞の残りの最後の文字から、「**soft ketchup**」の法則で**-t**か**-d**のどちらを付けるかを確認する。
4. 動詞の残りが次に該当する場合はつづりを修正する。
  - a. 長母音であるべき母音字のすぐ後ろに子音が1つある場合は、同じ母音字を1つ追加する。
  - b. 末尾に同じ子音字が2つ重なっているときはそのうち1つを取り除く。
  - c. 音節末の**z**を**s**に変える。
  - d. 音節末の**v**を**f**に変える。こうしてその動詞の語幹ができる。
5. 語幹の前に接頭辞の**ge-**、語幹の末尾に**-t/-d**を付ける。

ただし、強勢のない接頭辞 (**be-**, **ge-**, **her-**, **ont-** and **ver-**) で始まる動詞では、**ge-**を付けないことに注意。

上の手順を **werken**（働く）、**planten**（植える）、**leiden**（導く）、**verhuizen**（引っ越す）、**beloven**（約束する）で説明する。

1.	werken	planten	leiden	verhuizen	beloven
2.	werk-	plant-	leid-	verhuiz-	belov-
3.	<b>-k</b>	<b>-t</b>	<b>-d</b>	<b>-z</b>	<b>-v</b>
4.	werk	plant	leid	verhuis	beloof
5.	<b>gewerkt</b>	<b>geplant</b>	<b>geleid</b>	<b>verhuisd</b>	<b>beloofd</b>

過去分詞 **geplant** は、語幹が **-t** で終わるので、**-t** を追加しない。また、過去分詞 **geleid** は、語幹が **-d** で終わるので **-d** を追加しない。過去分詞 **verhuisd** は、強勢のない接頭辞 **ver-** で始まるので、**ge-** は付かない。**beloofd** も同様である。

## b. 助動詞 **hebben** と **zijn**

完了形を作るときに、助動詞 **hebben** ろ **zijn** をどのように使い分けるのだろうか。たいていは助動詞 **hebben** で問題ない。

**Zijn** が用いられるのは次の規則動詞と不規則動詞である。

- **komen** (来る)、**gaan** (行く)、**zijn** (ある)、**blijven** (とどまる)、**worden** (なる)、**gebeuren** (起こる)

Ik <b>ben</b> gisteren al <b>aangekomen</b> .	私は昨日もう到着しました。
Ik <b>ben</b> naar Amsterdam <b>gegaan</b> .	私はアムステルダムに行きました。
Ik <b>ben</b> er maar een week <b>geweest</b> .	私はそこに1週間だけいました。
Ik <b>ben</b> er niet lang <b>gebleven</b> .	私はそこに長くは行きませんでした。
Ik <b>ben</b> ziek <b>geworden</b> .	私は病気になりました。
Dat <b>is</b> al eerder <b>gebeurd</b> .	それは以前にも起きたことがあります。

- 状態の変化を表す動詞：**veranderen** (変わる)、**geboren worden** (生まれる)、**sterven** (死ぬ)、**stoppen** (止める) など

Jij <b>bent</b> erg <b>veranderd</b> .	君はずいぶんと変わりました。
Hij <b>is</b> in 1996 <b>geboren</b> .	彼は1996年に生まれました。
Zij <b>is</b> in 2003 <b>gestorven</b> .	彼女は2003年に他界しました。
Hij <b>is</b> met roken <b>gestopt</b> .	彼はタバコをやめました。

- 移動を表す動詞: **fietsen** (自転車に乗る)、**lopen** (歩く) など

これらの動詞は、助動詞として **zijn** と **hebben** を使い分けるが、  
 - **zijn** は方向や行き先を述べているときに使う。  
 - **hebben** は方向や行き先を述べていないときに使う。

比較すること。

Ik <b>ben</b> naar Leiden gefietst.	私はライデンへ自転車で行きました。
Ik <b>heb</b> drie uur gefietst.	私は3時間サイクリングをしてきました。
Ik <b>ben</b> naar huis gelopen.	私は歩いて家に帰りました。
Ik <b>heb</b> in de tuin gelopen.	私は庭を歩いてきました。

ここまで現在完了時制で助動詞の用例を示してきたが、最後に過去完了時制での助動詞の用例をあげると次のようになる。

(ある時点より前に)

Ik <b>was</b> naar Leiden gefietst.	私はライデンに自転車で行っていました。
Ik <b>had</b> drie uur gefietst.	私は3時間サイクリングをしていました。
Ik <b>was</b> naar huis gelopen.	私は歩いて家に帰っていました。
Ik <b>had</b> in de tuin gelopen.	私は庭を歩いていた。

助動詞が定形動詞となるので、平叙文 (主節) ではこの助動詞が文の2番目の位置に置かれ、過去分詞は文末に置かれることに注意。<sup>55</sup>

<sup>55</sup> 語順については第19章参照。

## 第 18 章 動詞（その 7）不規則動詞の単純過去形と完了形

### a. 不規則動詞の単純過去形

現在形では規則変化をする動詞が多いが、単純過去形や完了形では不規則変化をする。したがって、それぞれ暗記するほかない。ほとんどの不規則動詞は、母音が変化する。

spreken	sprak, spraken	heeft gesproken	話す
zitten	zat, zaten	heeft gezeten	座る

過去形は単数形と複数形とが 1 つずつあり、複数形は、通常は単数形に **-en** を付けて作る。**-en** を付けるときに、必要であればつづりの修正を忘れないこと。

schrijven	ik/jij/etc. schreef	wij/jullie/zij schreven	書く
zingen	ik/jij/etc. zong	wij/jullie/zij zongen	歌う

不規則動詞については、付録 I の不規則動詞表を参照のこと。この表では、主に母音の変化など、似た特徴の動詞ごとに分けて覚えやすくしてある。同じ動詞をアルファベット順に並べて表とともに役立ててほしい。基本動詞が不規則変化をする場合、その動詞に強勢のある接頭辞が付いた動詞もまた、不規則変化をする。例えば、基本動詞 **nemen** は不規則動詞なので、**afnemen, innemen, opnemen, overnemen** など不規則動詞である。

以下は、**hebben**（持っている）、**zijn**（ある、いる）、**worden**（～になる）、および（法）助動詞のすべて、つまり **kunnen**（～できる）、**moeten**（～しなければならない）、**mogen**（～してもよい）、**zullen**（～するだろう）、**willen**（～したい）の単純過去形一覧表である。

	hebben	zijn	worden	kunnen
ik	had	was	werd	kon
je/jij, u	had	was	werd	kon
hij, ze/zij, het	had	was	werd	kon
we/wij	hadden	waren	werden	konden
jullie	hadden	waren	werden	konden
ze/zij	hadden	waren	werden	konden
	moeten	mogen	zullen	willen
ik	moest	mocht	zou	wilde/wou <sup>56</sup>
je/jij, u	moest	mocht	zou	wilde/wou

<sup>56</sup> 好ましい活用形の **wilde/wilden** は規則変化であるが、口語体では **wou/wouden** がよく用いられる。

hij, ze/zij, het	moest	mocht	zou	wilde/wou
we/wij	moesten	mochten	zouden	wilden/wouden
jullie	moesten	mochten	zouden	wilden/wouden
ze/zij	moesten	mochten	zouden	wilden/wouden

## b. 不規則動詞の完了形

付録 I の表にはまた、よく使われる不規則動詞の完了形を載せ、助動詞 (**hebben** または **zijn**) も示した。不規則動詞の過去分詞は通常、**ge-** + 語幹 (母音が変化するものとししないものがある) + **-en** となる。

slapen	sleiep, sliepen	heeft geslapen	眠る
vallen	viel, vielen	is gevallen	落ちる

## 第 19 章 語順 (その 2) 長い主節のとき

倒置のない主節の平叙文の標準的な語順は、主語—定形動詞—その他の部分となることを先に見てきたが、<sup>57</sup> ここではより長い主節を取り上げる。動詞以外の部分については、再帰代名詞、直接・間接目的語、時の表現、方法や手段の表現、場所の表現の位置を、また動詞部分では、不定詞や過去分詞の位置を見ていく。<sup>58</sup>

### a. 動詞以外の部分での語順

再帰代名詞は、主語 + 定形動詞 (倒置文では定形動詞 + 主語) のすぐ後ろに来る。

Ik herinner **me** die man.  
私はあの男の人のことを覚えています。

Nu herinner ik **me** hem.  
今、私は彼のことを思い出しました。

直接目的語は、それが人称代名詞である場合を除く、間接目的語の後ろに来る。

<sup>57</sup> 第 2 章参照。

<sup>58</sup> 分離動詞の接頭辞の位置については第 27 章参照。また、「**om (...)** **te** + 不定詞」の位置については第 20 章参照。

Zij geeft haar vriend **Lof der zotheid van Erasmus**.  
彼女は友達にエラスムスの『愚神礼讃』をあげます。

Zij geeft hem **Lof der zotheid van Erasmus**.  
彼女は彼にエラスムスの『愚神礼讃』をあげます。

Zij heeft **het** haar vriend.  
彼女はそれを友達にあげます。

Zij geeft **het** hem.  
彼女はそれを彼にあげます。

限定されている（直接）目的語は定形動詞のすぐ後ろまたは文の中ほどに置かれ、一方、不定の（直接）目的語は文末寄りに置かれることが多い。

Ik heb **de tweeling** gisteren nog gezien.  
私はその双子をつい昨日見かけました。

Ik heb gisteren **de tweeling** nog gezien.  
私はつい昨日その双子を見かけました。

Ik heb gisteren in dit restaurant **een tweeling** gezien.  
私は昨日このレストランで双子を見かけました。

就職語句がいくつかあるときには、まず「時」、次に「方法・手段」、最後に「場所や方向」の順に置かれる傾向が強い。

Ik ga **op zaterdag naar de markt**.  
私は土曜日には青空市場に行っています。

Ik ga **morgen met de trein naar Amsterdam**.  
私は明日電車でアムステルダムに行く予定です。

## b. 定形動詞以外の動詞類の語順

過去分詞は文末に置かれる。

Ik heb gisteren zelf **gekookt**.  
私は昨日自分で料理を作りました。

不定詞は文末に置かれる。文中に複数の不定詞があるときには、本動詞が文末に置かれる。

Hij blijft vanavond bij ons **eten**.

彼は今晚私たちの家で夕食もとって行く予定です。

Hij wil vanavond bij ons **blijven eten**.

彼は今晚私たちの家で夕食もとりたいがっています。

Hij zou vanavond bij ons **willen blijven eten**.

彼は、今晚私たちの家で夕食もとっていきたくないと望んでいます。

簡単な規則はよいとしても、オランダ語の語順はかなり柔軟であることは強調しておきたい。オランダ語の学習を進めていくうちに、さらに多くの規則も例外も知ることになる。

## 第 20 章 動詞（その 8）*te* の付く不定詞と付けない不定詞

### a. *te* を付けない不定詞（原形不定詞）

（法）助動詞 **kunnen, moeten, mogen, willen, zullen** が *te* を付けない不定詞（原形不定詞）とともに用いられることはすでに見てきた。

例 Ik kan/moet/mag/wil/zal morgen komen.

このほか、*te* を付けない不定詞（原形不定詞）とともに用いられる動詞が、**gaan, komen, blijven, horen, zien, voelen, laten** である。

Ik **ga** vanavond hard **studeren**.

私は今夜猛勉強をする予定です。

Hij **komt** morgen bij ons **eten**.

彼は明日我が家に夕食を食べに来ます。

Wij **blijven** vanavond niet **slapen**.

私たちは今夜は泊まってはいきません。

Wij **horen** de baby **huilen**.

私たちにはその赤ちゃんの泣き声が聞こえます。

Ik **zie** mijn neef Jan daar **lopen**.

私はいとこのヤンがそこを歩いているのが見えます。

Ik **voel** de mug **bijten**.

私は蚊に刺されたと（感覚で）わかります。

（蚊に刺されました。）

Zij **laat** anderen voor zich **werken**.

彼女は他に人たちを自分の代わりに働かせています。



## b. *te* の付く不定詞

不定詞をとりうるこのほかの動詞はすべて、**te** を付けた不定詞とともに使う。少し例を挙げる。

beginnen te	～し始める
beloven te	～すると約束する
blijken te	～のようである、～とわかる
durven te	あえて～する
hoeven te	( <b>geen</b> または <b>niet</b> とともに用いて) ~する必要がない。
lijken te	～のように見える (思われる)、～のようである
proberen te	～しようと試みる
schijnen te	～のように見える、～らしい
vergeten te	～し忘れる
weigeren te	～するのを拒む

Het <b>begint te</b> regenen.	雨が降り出します。
Het kind <b>belooft</b> het nooit meer <b>te</b> doen.	その子供はそれをもう二度としないと約束します。
Hij <b>blijkt</b> toch <b>te</b> komen.	彼はどのみち来るようです。
Ik <b>durf</b> niet <b>te</b> zwemmen.	私には泳ぐ勇気がありません。
Ik <b>probeer</b> toch naar Amsterdam <b>te</b> komen.	とにかく私はアムステルダムに行くようにします。
Hij <b>vergeet</b> een kaartje <b>te</b> kopen.	彼は切符を買うのを忘れていました。

この中で特殊なのは **hoeven** で、必ず否定の語 (**geen** または **niet**)<sup>59</sup> を伴い **moeten** の否定を作る。不定詞とともに用いるときは、**te** を付けなければならない。

Ik <b>moet</b> huiswerk maken.	私は宿題をしなければなりません。
Ik <b>hoef</b> geen huiswerk <b>te</b> maken.	私は宿題をする必要がありません。
Hij <b>moet</b> vanavond komen.	彼は今晚来なくてはなりません。
Hij <b>hoeft</b> vanavond niet <b>te</b> komen.	彼は今晚来る必要がありません。

## c. *te* を用いて 2 つの同時に進行する動作を表す

2 つの動作が同時に起きることを表すのに、オランダ語では特別な構文「定形動詞+ **te** + 不定詞」を用いる。この構文で用いることができる定形動詞は次の動詞のみである。

staan	立って～している
zitten	座って～している
liggen	横になって～している

<sup>59</sup> 否定については第 10 章参照。

lopen            歩きながら～している  
hangen            かかって（下がって）～している

定形動詞は1つ目の動作を示し、2つ目の動作を表す不定詞と **te** でつながっている。

Hij <b>staat te</b> praten.	彼は立ち話をしています。
Ik <b>zit</b> een boek <b>te</b> lezen.	私は座って本を読んでいます。
Zij <b>ligt te</b> slapen.	彼女は（横になって）眠っています。
Jij <b>loopt te</b> dromen.	あなたは歩きながら空想にふけています。
De was <b>hangt te</b> drogen.	洗濯物がかかって乾いてきています。 (洗濯物が干してあります。)

#### d. 「**om (...)** **te** + 不定詞」の構文

「**om (...)** **te** + 不定詞」の構文で、**om** は目的語を示すことができる<sup>60</sup>。

Ik heb een cursus gevolgd **om te leren koken**.  
私は料理を習おうと講習を受けました。

Ik ben gisteren naar Amsterdam geweest **om een expositie te bezoeken**.  
私は昨日展覧会を見にアムステルダムへ行きました。

「**te** + 形容詞 + **om (...)** **te** + 不定詞」のように組み合わせることもできる。

Ik ben te moe **om te studeren**.  
私は勉強できないほど疲れています。

Het is te laat **om naar de supermarkt te gaan**.  
スーパーに行くには遅すぎます。

「**om (...)** **te** + 不定詞」で、先行する人称代名詞 **het** を具体的に述べることもできる。

Ik haat **het om die onregelmatige werkwoorden te leren!**  
私はそれらの不規則動詞を覚えるのは嫌です！

Het is veel leuker **om naar het strand te gaan!**  
ビーチに行くのはずっと楽しいです。

<sup>60</sup> 英語の「**in** **oder to**+不定詞」の構文とと比較すること。

「**zin hebben**」と「**om (...)** **te** + 不定詞」を組み合わせると次の文ができる。<sup>61</sup>

**Ik heb zin om vanavond naar Utrecht te gaan.**  
私は今晚ユトレヒトに行きたいです。

「**om (...)** **te** + 不定詞」の構文は、動詞以外の部分やほかの動詞よりもさらに後ろの、文末に置かれる。

## 第 21 章 動詞（その 9）未来時制

オランダ語には未来時制の助動詞 **zullen** があるがあまり使われず、通常は本動詞を現在形で用いる。その文が未来のことを述べているかどうかは文脈からわかるが、**morgen**（明日）、**volgende week**（来週）などの時を表す表現を添えてはつきりさせることもある。

**Ik werk morgen niet.**  
私は明日は仕事をしません。

**Ik doe volgende week rijexamen.**  
私は来週運転免許試験を受けます。

動詞の **gaan** は未来を表す助動詞のように用いることもできる。その場合は必ず原形不定詞とともに用いる。

**Volgend jaar ga ik in Amerika studeren.**  
来年私は米国に留学します。

助動詞 **zullen** は、駅の構内アナウンスなど公式の場に用いられる。

**De trein naar Leiden zal over enkele ogenblikken aankomen op spoor 5.**  
ライデン行きの列車は、まもなく 5 番ホームに到着します。

## 第 22 章 動詞（その 10）受動態

受動態は、助動詞と本動詞の過去分詞からなる。<sup>62</sup> 現在時制と過去時制には助動詞 **worden** を、また、現在完了時制と過去完了時制には助動詞 **zijn** を用いる。

---

<sup>61</sup> 「**zin hebben**」のその他の構文としては、**in** を使った前置詞句とともに用いるものがある。例：Ik heb zin in koffie.（私はコーヒーが飲みたい。）

基本的に、受動態とは、能動文の目的語を主語にすることで視点を変える平叙文である。もとの能動文の主語が前置詞 **door** の後ろに付け加えられることもある。

**Ik heb deze boeken gekocht.** 私はこちらの本を買いました。  
**Deze boeken zijn door mij gekocht.**<sup>63</sup> これらの本は私によって買われました。

しかし、能動文で主語であったものは、省略されることも多い。

**De arts opereert mij volgende week.** その医師は来週私の手術をします。  
**Ik word volgende week [-] geopereerd.** 私は来週手術を受けます。

**Hij heeft twee studenten gebeld.** 彼は学生 2 人に電話をかけました。  
**Twee studenten zijn [-] gebeld.** 2 人の学生は電話されました。

また、真主語が全くない受動文もある。その場合、文法上の主語として **er** を使う。

**Er wordt gebeld. Wie kan dat zijn?** 呼び鈴がなっています。(あれは) 誰でしょう？  
**Er wordt vanavond veel gelachen.** 今晚は笑いにあふれています。

## 第 23 章 重文・複文 (その 1) 主節と主節をつなぐ

重文では 2 つの主節が等位接続詞でつながれる。等位接続詞によって文の語順が変わることはなく、双方の節で定形動詞は前から 2 番目の位置に置かれる。この場合、接続詞が 2 つ目の主節に入るとは考えずに、接続詞の後から数え始める。

等位接続詞には次のものがある。

en	そして
maar	しかし
want <sup>64</sup>	というのも
of	または
dus	したがって

<sup>62</sup> 過去分詞については、第 17, 18 章と付録 I を参照。

<sup>63</sup> **Deze boeken worden door mij gekocht** の文で、助動詞 **worden** は、現在時制では **worden**、過去時制では **werden**、現在完了時制では、**zijn**、過去完了時制では **waren** となる。

<sup>64</sup> **want** は主節をもう一つ導入する。同じく「というのも」という意味を持ちながら従属節を導入する従属接続詞 **omdat** と比較すること。第 24 章 c を参照。

例

Jan slaapt **en** Marian kookt.

ヤンは眠っていて、マリアンは食事を作っています。

Jan slaapt **maar** Marian kan niet slapen.

ヤンは眠っていますが、マリアンは寝付けません。

Jan slaapt **want** hij is erg moe.

ヤンは寝ています、というのも彼はとても疲れているからです。

Jan werkt nog **of** hij is op weg naar huis.

ヤンはまだ仕事をしているか、または帰宅途中です。

Jan is moe **dus** hij gaat naar bed.

ヤンは疲れているので寝ます。

等位接続詞の **of** で、2つの一般疑問文<sup>65</sup>をつなぐこともできる。その場合、定形動詞が文頭に  
来る。

Ga je mee **of** blijf je thuis?

あなたは一緒に行きますか、それとも家にいますか？

Kom jij bij mij **of** kom ik bij jou?

あなたが私の家に来ますか、それとも私があなたの家へ行きますでしょうか？

## 第 24 章 重文・複文（その 2）主節と従属節をつなぐ

### a. 複文の語順

主節と従属節からなる複文は、主節と従属節のどちらからも始めることができる。主節が先に  
来る場合、主節の中の語順は、通常どおり定形動詞が 2 番目となり、主語は文頭、もしくは倒  
置であれば 3 番目の位置に来る。

**Ik ga** vanavond naar de film *als ik genoeg tijd heb*.

私は時間があれば今晚映画を見に行きます。

---

<sup>65</sup> 疑問文については第 6 章参照。

Vanavond **ga ik** naar de film *als ik genoeg tijd heb*.

今晚私は時間があれば映画を見に行きます。

文が従属節から始まる場合、その後に主語と定形動詞が倒置した主節が続く。

*Als ik genoeg tijd heb,*<sup>66</sup> **ga ik** vanavond naar de film.

私は時間があれば今晚映画を見に行きます。

この従属節全体が、次の副詞 1 語の場合と同じように、倒置を引き起こす。

*Dan* **ga ik** vanavond naar de film.

それなら私は今晚映画を見に行きます。

従属節が文頭に来て主節の倒置をもたらす例

*Nadat ik boodschappen heb gedaan,* **ga ik** eten koken.

私は買い物を終えたあと夕食のしたくに取りかかります。

*Daarna* **ga ik** eten koken.

そのあと私は夕食のしたくに取りかかります。

## b. 従属節の中の語順

従属節の定形動詞は、上の例が示すように節の最後に来る。従属節に複数の動詞があるときには、その動詞群も節の最後に来るが、定形動詞は、通常それ以外の動詞（不定詞、過去分詞）の前に置かれる。

*Ik weet dat hij dat niet doet.*

彼はそれをしないと私はわかっています。

*Ik weet dat hij dat niet heeft gedaan.*

彼はそれをしていないと私はわかっています。

*Ik weet dat hij dat nooit had kunnen doen.*

彼はそれをできなかったであろうと、私はわかっています。

(または、彼はそれをできたような人ではないと、私はわかっています。)

従属節は従位接続詞で始まる。オランダ語には数多くの従位接続詞がある。

---

<sup>66</sup> If the finite verb of a sub-clause is followed by the finite verb of the main clause, put a comma in between.

### c. 従位接続詞

- 時を表す従位接続詞は多い。

als, wanneer <sup>67</sup>	～するとき
toen <sup>68</sup>	～したあと
totdat	～するまで
voordat	～する前に
nadat <sup>69</sup>	～した後で
terwijl	～している間 (に)
sinds <sup>70</sup>	～して以来
zodra	～するとすぐ

- このほか、従位接続詞には次のものがある。

omdat <sup>71</sup>	～なので、～だから (接続詞のあとは従属節の語順)
doordat <sup>72</sup>	～だから
zodat	その結果、そういうわけで、～するように
als, indien <sup>73</sup>	もし～ならば
tenzij	～でなければ、～でないかぎり
hoewel	～であるけれども、～にもかかわらず
zoals	～のように

これらの従位接続詞の用法を文章の中で示した。主語と従属節それぞれの中での語順に注意。

**Wanneer** ik klaar ben, roep ik je.

私は準備ができたならあなたに声をかけます。

**Toen** het begon te regenen, ging ik naar huis.

雨が降り出したとき私は家路についていました。

We blijven hier staan **totdat** de trein komt.

電車が来るまでここに立って (待って) しましょう。

Je moet je handen wassen **voordat** je gaat eten.

あなたは食事を始める前に手を洗わなければなりません。

<sup>67</sup> 常に現在形とともに用いる。

<sup>68</sup> 常に過去形とともに用いる。従属接続詞 **toen** を、時を表す副詞 **toen** と混同しないこと。

<sup>69</sup> 常に完了形とともに用いる。

<sup>70</sup> **sinds** には従位接続詞と前置詞があるので混同しないこと。前置詞 **sinds** については付録V参照。

<sup>71</sup> 同じく「because」という意味だが、主節を導入する **want** と比較すること。第23章参照。

<sup>72</sup> オランダ人にとっても **omdat** と **doordat** の使い分けは難しいが、**Omdat** は理由や根拠を、**doordat** は原因を指す。

<sup>73</sup> **Indien** は文章体で、**als** は文章体でも口語体でも使う。

**Nadat** ik heb opgeruimd, ga ik naar bed.  
私は片付けが済んだら寝ます。

Hij fluit **terwijl** hij onder de douche staat.  
彼はシャワーを浴びながら口笛を吹いています。

**Sinds** zij in Leiden woont, zien we haar nooit meer.  
彼女がライデンに住むようになってから、私たちはもう彼女と会っていません。

Ik bel je **zodra** ik iets weet.  
何かわかり次第、あなたに電話します。

Ik ga niet met vakantie **omdat** ik geen geld heb.  
私はお金がないので、休暇旅行に行きません。

**Doordat** de trein vertraging had, kwam ik te laat.  
電車が遅れたので、私は遅刻しました。

Ik heb geld gespaard, **zodat** ik met vakantie kan.  
私は休暇旅行に行けるように、お金を貯めました。

**Als** je morgen langs wilt komen, moet je me van tevoren bellen.  
もしも明日寄りたければ、先に電話をして下さい。

Ik kan niet met jullie mee, **tenzij** ik een dag vrij kan krijgen.  
私は休みが1日取れなければあなたたちと一緒にには行けません。

Je spreekt dit woord uit **zoals** je het schrijft.  
この言葉は綴りのとおりに発音すればいいのです。

#### d. 間接話法

間接話法では特殊な従属節が用いられる。間接話法とは、直接話法ではそのまま伝えられる内容を、伝達する人の言葉で人に伝える言い方であるが、広い意味では、間接疑問文や間接平叙文もまた間接話法に含まれる。間接疑問文と間接平叙文の語順については従属節の規則に従う。主節と従属節のつなぐものには次のものがある。

- 間接平叙文を導く等位接続詞 **dat**<sup>74</sup>
- 間接一般疑問文を導く従位接続詞 **of**<sup>75</sup>
- その他の間接疑問文を導く疑問詞

<sup>74</sup> 従位接続詞の **dat** を、指示代名詞の **dat** (第11章参照) や関係代名詞の **dat** (第25章参照) と混同しないこと。

<sup>75</sup> 従位接続詞の **of** を、選択肢を示す等位接続詞の **of** (第23章参照) と混同しないこと。



次の例では、まず直接引用文（直接話法）を挙げる。語順に注意。

• 等位接続詞 *dat* を用いた間接平叙文

Kees zegt: "Ik heb honger."  
Kees zegt **dat** hij honger heeft.

ケースは「ぼくはおなかがすいた」と言っています。  
ケースはおなかがすいたと言っています。

Hij komt morgen.  
Ik denk **dat** hij morgen komt.  
Het is zeker **dat** hij morgen komt.

彼は明日来ます。  
彼は明日来ると私は思います。  
彼が明日来るのは確かです。

• *of* を用いた間接疑問文

Jan vraagt: "Wil jij een appel?" 「あなたはりんごがほしいですか？」とヤンが尋ねています。  
Jan vraagt **of** jij een appel wilt. あなたはりんごがほしいかどうか、ヤンは尋ねています。

Komt hij morgen?  
Ik weet niet **of** hij morgen komt.  
Het is onzeker **of** hij morgen komt.

彼は明日来ますか？  
彼が明日来るのかどうか、私は知りません。  
彼が明日来るのかどうかは不確かです。

• 疑問詞を用いた疑問文

Anne vraagt: "**Waar** ga je **naartoe**?"

「あなたはどこに行きますか？」とアンネが尋ねています。

Anne vraagt **waar** je **naartoe** gaat.

アンネは、あなたがどこに行くのか尋ねています。

**Wat** komt hij doen?

彼は何をしに来ているのですか？

Ik weet niet **wat** hij komt doen.

彼が何をしに来ているのか、私は知りません。

Het is niet duidelijk **wat** hij komt doen.

彼が何をしに来ているのかは、明らかではありません。

## 第 25 章 代名詞 (その 4) 関係代名詞

### a. 関係代名詞の *die* と *dat*

- **Die** が用いられるもの
  - 単数形の **de** 名詞
  - (単数形で **de** 名詞 **het** 名詞に関係なく) すべての複数形の名詞

例

De man **die** daar loopt, is mijn buurman.  
あそこを歩いている男性は、私の隣人です。

De huizen **die** kort geleden zijn verkocht, zijn 10 jaar oud.  
最近売られたその家々は、築 10 年です。

- **Dat** が用いられるもの
  - 単数形の **het** 名詞

例

Het huis **dat** kort geleden is verkocht, is 10 jaar oud.  
最近売られたその家は、築 10 年です。

Het kind **dat** huult, is gevallen.  
その泣いている子は転んだのです。

### b. 関係代名詞 *wat*

関係代名詞の **wat** は、次の語の後ろに用いられる。

alles	すべて、あらゆる物 (こと)
iets	何かある物 (こと)
niets	何も～ない
veel	多くの物 (こと)、たくさん物 (こと)
weinig	少しの物 (こと)、わずかな物 (こと)

例

Alles **wat** je hier ziet, heb ik zelf gemaakt.

あなたがここで目にしている物すべてを、私は自分で作りました。

Er is niet veel **wat** ik niet lekker vind.

私は嫌いな（食べ）物はあまりありません。

**wat** は文章全体を指すときにも用いる。

We gaan morgen naar Amsterdam, **wat** ik heel leuk vind.

明日私たちがアムステルダムに行くのは、とてもよいと思います（楽しみです）。

### c. 関係代名詞の *waar*

関係代名詞の **waar** は場所を指す。

Ik woon in de stad **waar** ik geboren ben.

私は自分の生まれた街に住んでいます。

De winkel **waar** ik deze heerlijke broodjes koop, is vlakbij.

私がこれらのおいしいパンを買う店は近くにあります。

### d. 関係代名詞 *wie* と *wat* + 前置詞

関係代名詞の **wie** と **wat** は、前置詞とともに用いることがある。その場合、

- ・ 関係代名詞が人を指すときには、前置詞+ **wie**
- ・ 関係代名詞が物を指すときには、**waar** + 前置詞<sup>76</sup>

例

De docent **op wie** ik wacht, is er nog niet.<sup>77</sup>

私が待っている先生はまだ来ていません。

De film **waar** ik **naar** kijk, is heel goed.<sup>78</sup>

私が見ている映画はとてもよいです。

<sup>76</sup> 関係代名詞 **wat** が前置詞と結合する場合、代わりに **waar** が使われる。

<sup>77</sup> 口語では、多くのオランダ人が人を指すのに **waar** + 前置詞を使うが、これは厳密には誤用である。

<sup>78</sup> De film **waarnaar** ik kijk ... とすることもできるが、通常、**waarnaar** のような語は、2語に切り離して使う（第6章参照）。

## 第 26 章 重文・複文（その 3）関係詞節

関係詞節は、関係代名詞によって導かれる。関係詞節は、通常は修飾する語や語群（先行詞）のすぐ後ろに置かれるため、文の中ほどに来ることがある。関係詞節の中の語順はほかの従属節と同様で、定形動詞やその他の動詞群は、関係詞節の最後に来る。

De man **die in dat huis woont**, is erg oud.  
あの家に住んでいる男性は、とても高齢です。

Het boek **dat ik gisteren heb gekocht**, is een cadeau voor mijn moeder.  
私が昨日買った本は、母への贈り物です。

ときに、関係詞節が修飾する語（先行詞）から離れて文の後方に置かれることがある。その場合、度の語を修飾しているかは、文脈から明らかとなる。

Hij heeft mij een foto gestuurd, **die ik erg leuk vind**.  
彼は私に写真を送ってくれましたが、その写真を私はとても気に入っています。

## 第 27 章 動詞（その 11）分離動詞と非分離動詞

動詞の多くは接頭辞で始まる。その接頭辞には強勢のあるものとないものがあり、よい辞書には接頭辞の強勢の有無が示されている。

強勢のない接頭辞としては、**be-, ge-, her-, ont-, ver-**がある。次の動詞では強勢音節を太字で示した。これらの動詞は分離しない。

<b>begin</b> nen	始める
<b>ge</b> beuren	起こる
<b>her</b> kennen	認識する
<b>ont</b> moeten	(偶然に) 出会う
<b>ver</b> anderen	変わる、変える
<b>er</b> varen	経験する

これらの非分離動詞は接頭辞に強勢がないので、過去分詞形で **ge-** が付かないことに注意。<sup>79</sup>

強勢のある接頭辞で始まる動詞は分離する。強勢のある接頭辞（次の太字部分）は基本動詞の意味を変える。**nemen**（取る）を例に示す。

<sup>79</sup> 第 17 章の規則動詞の完了形参照。

<b>aannemen</b>	受けとる
<b>afnemen</b>	減少する、取り去る
<b>doornemen</b>	(手紙などを) 入念に読む、調べる
<b>innemen</b>	取り込む
<b>meenemen</b>	持っていく
<b>opnemen</b>	手に取る、(お金を) 引き出す、(電話を) 取る
<b>overnemen</b>	ひき継ぐ、ひき取る
<b>toenemen</b>	増える

辞書で動詞の意味を調べるときは、その動詞が分離動詞で、その分離した接頭辞が文中のほかのところにあるかもしれない(その場合文末近くにあることが多い)と念頭に置いておこう。接頭辞も含めた動詞の原形で、やっと意味が調べられるのである。次の文の動詞の原形は **opzoeken** (**zoeken** ではなく) である。

**Hij zoekt het word in het woordenboek op.**  
彼は辞書でその言葉を探します。

もともと、分離動詞がいつも分離しているわけではない。分離動詞 **meenemen** と **opbellen** を例に挙げる。

• 分離動詞が主節の定形動詞のときは、現在形でも単純過去形でも分離し、接頭辞は通常は文末に来る。

**Ik neem dit boek mee.**  
私はこの本を持っています。

**Hij belde me gisteren op.**  
彼は昨日私に電話をしました。

• 命令形でも分離する。

**Neem dit boek mee!**  
この本を持って行って!  
(または持ってきて!)  
**Bel me morgen op!**  
明日私に電話してくれ!

• **te** を付けた不定詞として用いられるときも分離する。

**Hij belooft het morgen mee te nemen.**  
彼はそれを明日持っていく(または持ってくる)と約束しています。

**Jij hoeft me vanavond niet op te bellen.**  
あなたは今晚私に電話をする必要はありません。

• 過去分詞形では分離する。過去分詞形は、接頭辞と動詞の間に **ge-** を入れて作る。

Ik heb dit boek voor jullie **meegenomen**.

この本を、あなたたちのために持ってきました。

Ik weet dat hij me gisteren heeft **opgebeld**.

彼が昨日私に電話をかけてきたことを私は知っています。

- 動詞の原形（不定詞）で（法）助動詞とともに用いられるときは分離しない。

Ik wil dit boek **meenemen**.

私はこの本を持っていきたいです。

Ik zal je morgen **opbellen**.

私はあなたに明日電話をします。

- 最後に、従属節の定形動詞であるときも分離しない。その場合、従属節の最後に分離しない形で置かれる。

Ik weet dat hij het boek niet **meeneemt**.

彼がその本を持っていかない（または持ってこない）と、私はわかっています。

Ik hoop dat je me morgen **opbelt**.

明日あなたから電話をもらえるといいです。

## 付録

I	不規則動詞表	55
II	数詞	62
III	数量単位	64
IV	日時	66
V	前置詞	70
VI	副詞	77
VII	人や物を指す言葉	80
VIII	基本文法用語集	83

## 付録 I 不規則動詞表

次の動詞は不規則変化をするが、その中に何らかの規則性があり、似た特徴ごとにまとめられることがわかる。この表では、原形（不定詞）、過去形の単数と複数、および過去分詞に3人称単数の助動詞も併記したものの順で示した。<sup>80</sup>

原形不定詞 過去形（単数、複数）完了形（3人称単数、現在）

<b>ij</b>	<b>ē</b>	<b>ē</b>	
begrijpen	begreep, begrepen	heeft begrepen	理解する
beschrijven	beschreef, beschreven	heeft beschreven	書く、描写する
blijken	bleek, bleken	is gebleken	明らかである
blijven	bleef, bleven	is gebleven	とどまる、～のままである
kijken	keek, keken	heeft gekeken	見る、眺める
krijgen	kreeg, kregen	heeft gekregen	得る
lijken	leek, leken	heeft geleken	(～のように) 見える、似ている
ontbijten	ontbeet, ontbeten	heeft ontbeten	朝食をとる
overlijden	overleed, overleden	is overleden	死ぬ、亡くなる
rijden	reed, reden	heeft/is <sup>81</sup> gereden	乗る、乗っていく、運転する
schijnen	scheen, schenen	heeft geschenen	(～のように) 見える、光る
schrijven	schreef, schreven	heeft geschreven	書く
snijden	sneed, sneden	heeft gesneden	切る、切れる
verdwijnen	verdween, verdwenen	is verdwenen	消える
vergelijken	vergeleek, vergeleken	heeft vergeleken	比較する、たとえる
verwijzen	verwees, verwezen	heeft verwezen	差し向ける、参照する
wijzen	wees, wezen	heeft gewezen	示す、指摘する
<b>ie</b>	<b>ō</b>	<b>ō</b>	
bieden	bood, boden	heeft geboden	差し出す、値をつける
genieten	genoot, genoten	heeft genoten	享受する、楽しむ
kiezen	koos, kozen	heeft gekozen	選ぶ
liegen	loog, logen	heeft gelogen	うそをつく
schieten	schoot, schoten	heeft geschoten	撃つ
verbieden	verbod, verboden	heeft verboden	禁止する
verliezen	verloor, verloren	(is/)heeft verloren	失う
<b>ui</b>	<b>ō</b>	<b>ō</b>	
buigen	boog, bogen	heeft gebogen	曲がる、曲げる
ruiken	rook, roken	heeft geroken	においで知る、においがする

<sup>80</sup> 分離動詞の変化形については、基本動詞を参照する（例えば、**aannemen, afnemen, doornemen, innemen, meenemen, opnemen, overnemen** などの過去形や完了形は、**nemen** を見る）。ただし、それぞれの分離動詞の意味は辞書で接頭辞のついた動詞の原形で調べる。分離動詞については第 27 章参照。

<sup>81</sup> 方向や行き先を述べていない時は **heeft** を、述べていれば **is** を用いる。第 17 章参照。



sluiten	sloot, sloten	heeft gesloten	閉める、閉まる
<b>ē</b> bewegen scheren wegen	<b>ō</b> bewoog, bewogen schoor, schoren woog, wogen	<b>ō</b> heeft bewogen heeft geschoren heeft gewogen	動く、動かす (ひげ・毛髪を) そる 重さを量る、重さがある
<b>ī</b> beginnen binden drinken schrikken springen stinken verbinden vinden winnen zingen	<b>ō</b> begon, begonnen bond, bonden dronk, dronken schrok, schrokken sprong, sprongen stonk, stonken verbond, verbonden vond, vonden won, wonnen zong, zongen	<b>ō</b> is begonnen heeft gebonden heeft gedronken is geschrokken heeft/is <sup>81</sup> gesprongen heeft gestonken heeft verbonden heeft gevonden heeft gewonnen heeft gezongen	始める、始まる 結ぶ、縛る 飲む 怖がっている 跳ねる 悪臭を放つ つなぐ 見つける 勝つ 歌う
<b>ě</b> trekken vechten vertrekken zenden zwemmen	<b>ō</b> trok, trokken vocht, vochten vertrok, vertrokken zond, zonden zwom, zwommen	<b>ō</b> heeft getrokken heeft gevochten is vertrokken heeft gezonden heeft/is <sup>81</sup> gezwommen	引く 戦う 出発する 送る 泳ぐ
<b>ě</b> helpen sterven	<b>ie</b> hielp, hielpen stierf, stierven	<b>ō</b> heeft geholpen is gestorven	助ける 死ぬ
<b>ē</b> bespreken breken nemen ontbreken  spreken steken	<b>ǎ, ā</b> besprak, bespraken brak, braken nam, namen ontbrak, ontbraken  sprak, spraken stak, staken	<b>ō</b> heeft besproken heeft gebroken heeft genomen heeft ontbroken  heeft gesproken heeft gestoken	話す、話し合う 壊れる、壊す (手に) 取る (人が) いない、(必要なものが) 欠けている。 話す 刺す
<b>ē</b> eten genezen geven lezen vergeten	<b>ǎ, ā</b> at, aten genas, genazen gaf, gaven las, lazten vergat, vergaten	<b>ē</b> heeft gegeten is genezen heeft gegeven heeft gelezen (is/)heeft vergeten	食べる 治す、治る 与える 読む、読書する 忘れる

<b>ī</b>	<b>ǎ, ā</b>	<b>ē</b>	
bidden	bad, baden	heeft gebeden	祈る
liggen	lag, lagen	heeft gelegen	横たわっている、ある
zitten	zat, zaten	heeft gezeten	座っている、ある
<b>ā</b>	<b>oe</b>	<b>ā</b>	
dragen	droeg, droegen	heeft gedragen	持つ、身につけている
slaan	sloeg, sloegen	heeft geslagen	打つ
vragen	vroeg, vroegen	heeft gevraagd	尋ねる

### Other verbs

bezoeken	bezocht, bezochten	heeft bezocht	訪問する
brenge	bracht, brachten	heeft gebracht	運ぶ、持ってくる
denken	dacht, dachten	heeft gedacht	考える、思う
kopen	kocht, kochten	heeft gekocht	買う
verkopen	verkocht, verkochten	heeft verkocht	売る
zoeken	zocht, zochten	heeft gezocht	探す
bestaan	bestond, bestonden	heeft bestaan	存在する
doen	deed, deden	heeft gedaan	する、行う
gaan	ging, gingen	is gegaan	行く
staan	stond, stonden	heeft gestaan	立っている、ある
verstaan	verstond, verstonden	heeft verstaan	理解する、聞こえる
zien	zag, zagen	heeft gezien	見る、見える
houden	hield, hielden	heeft gehouden	つかんでいる、もちこたえる
laten	liet, lieten	heeft gelaten	控える、許す、～させる
lopen	liep, liepen	heeft/is <sup>81</sup> gelopen	歩く
roepen	riep, riepen	heeft geroepen	呼ぶ
slapen	sliep, sliepen	heeft geslapen	眠る
vallen	viel, vielen	is gevallen	落ちる、転ぶ
hangen	hing, hingen	heeft gehangen	かかっている、かける
vangen	ving, vingen	heeft gevangen	捕らえる
hebben	had, hadden	heeft gehad	持っている
komen	kwam, kwamen	is gekomen	来る
kunnen	kon, konden	heeft gekund	～できる
moeten	moest, moesten	heeft gemoeten	～しなければならない
mogen	mocht, mochten	heeft gemogen	～してもよい
weten	wist, wisten	heeft geweten	知っている

willen	wou/wouden <sup>82</sup>	heeft gewild	～したい、欲する
worden	werd, werden	is geworden	～になる
zeggen	zei, zeiden	heeft gezegd	言う
zijn	was, waren	is geweest	ある、いる
zullen	zou, zouden	-	～する（となる）だろう
bakken	bakte, bakten	heeft gebakken	焼く
heten	heette, heetten	heeft geheten	(～と) 呼ばれる、呼ぶ
lachen	lachte, lachten	heeft gelachen	笑う
raden	raadde, raadden	heeft geraden	推測する、助言する
wassen	waste, wasten	heeft gewassen	洗う

---

<sup>82</sup> 規則変化の過去形 **wilde/wilden** が通常は使われる。第 18 章参照。

## 不規則動詞表 (アルファベット順)

bakken	bakte, bakten	heeft gebakken	焼く
beginnen	begon, begonnen	is begonnen	始める、始まる
begrijpen	begreep, begrepen	heeft begrepen	理解する
beschrijven	beschreef, beschreven	heeft beschreven	書く、描写する
bespreken	besprak, bespraken	heeft besproken	話す、話し合う
bestaan	bestond, bestonden	heeft bestaan	存在する
bewegen	bewoog, bewogen	heeft bewogen	ある、いる、存在する
bezoeken	bezocht, bezochten	heeft bezocht	動く、動かす
bidden	bad, baden	heeft gebeden	訪問する
bieden	bood, boden	heeft geboden	祈る
binden	bond, bonden	heeft gebonden	差し出す、値をつける
blijken	bleek, bleken	is gebleken	結ぶ、縛る
blijven	bleef, bleven	is gebleven	明らかである
breken	brak, braken	heeft gebroken	とどまる、～のままである
brenge	bracht, brachten	heeft gebracht	壊れる、壊す
buigen	boog, bogen	heeft gebogen	運ぶ、持ってくる
denken	dacht, dachten	heeft gedacht	考える、思う
doen	deed, deden	heeft gedaan	する、行う
dragen	droeg, droegen	heeft gedragen	持つ、身につけている
drinken	dronk, dronken	heeft gedronken	飲む
eten	at, aten	heeft gegeten	食べる
gaan	ging, gingen	is gegaan	行く
genezen	genas, genazen	is genezen	治す、治る
genieten	genoot, genoten	heeft genoten	享受する、楽しむ
geven	gaf, gaven	heeft gegeven	与える
hangen	hing, hingen	heeft gehangen	かかっている、かける
hebben	had, hadden	heeft gehad	持っている
helpen	hielp, hielpen	heeft geholpen	助ける
heten	heette, heetten	heeft geheten	(～と) 呼ばれる、呼ぶ
houden	hield, hielden	heeft gehouden	つかんでいる、もちこたえる
kiezen	koos, kozen	heeft gekozen	選ぶ
kijken	keek, keken	heeft gekeken	見る、眺める
komen	kwam, kwamen	is gekomen	来る
kopen	kocht, kochten	heeft gekocht	買う
krijgen	kreeg, kregen	heeft gekregen	得る
kunnen	kon, konden	heeft gekund	～できる
lachen	lachte, lachten	heeft gelachen	笑う
laten	liet, lieten	heeft gelaten	控える、許す、～させる
lezen	las, lazen	heeft gelezen	読む、読書する
liegen	loog, logen	heeft gelogen	うそをつく
liggen	lag, lagen	heeft gelegen	横たわっている、ある

lijken	leek, leken	heeft geleken	(~のように) 見える、似ている
lopen	liep, liepen	heeft/is <sup>81</sup> gelopen	歩く
moeten	moest, moesten	heeft gemoeten	~しなければならない
mogen	mocht, mochten	heeft gemogen	~してもよい
nemen	nam, namen	heeft genomen	(手に) 取る
ontbijten	ontbeet, ontbeten	heeft ontbeten	朝食をとる
ontbreken	ontbrak, ontbraken	heeft ontbroken	(人が) いない、(必要な物が) 欠けている
overlijden	overleed, overleden	is overleden	死ぬ、亡くなる
raden	raadde, raadden	heeft geraden	推測する、助言する
rijden	reed, reden	heeft/is <sup>81</sup> gereden	乗る、乗っていく、運転する
roepen	riep, riepen	heeft geroepen	呼ぶ
ruiken	rook, roken	heeft geroken	においで知る、においがする
scheren	schoor, schoren	heeft geschoren	(ひげ・毛髪を) そる
schieten	schoot, schoten	heeft geschoten	撃つ
schijnen	scheen, schenen	heeft geschenen	(~のように) みえる、光る
schrijven	schreef, schreven	heeft geschreven	書く
schrikken	schrok, schrokken	is geschrokken	怖がっている
slaan	sloeg, sloegen	heeft geslagen	打つ
slapen	sliep, sliepen	heeft geslapen	眠る
sluiten	sloot, sloten	heeft gesloten	閉める、閉まる
snijden	sneed, sneden	heeft gesneden	切る、切れる
spreken	sprak, spraken	heeft gesproken	話す
springen	sprong, sprongen	heeft/is <sup>81</sup> gesprongen	跳ねる
staan	stond, stonden	heeft gestaan	立っている、ある
steken	stak, staken	heeft gestoken	刺す
sterven	stierf, stierven	is gestorven	死ぬ
stinken	stank, stonken	heeft gestonken	悪臭を放つ
trekken	trok, trokken	heeft getrokken	引く
vallen	viel, vielen	is gevallen	落ちる、転ぶ
vangen	ving, vingen	heeft gevangen	捕らえる
vechten	vocht, vochten	heeft gevochten	戦う
verbieden	verbod, verboden	heeft verboden	禁止する
verbinden	verbond, verbonden	heeft verbonden	つなぐ
verdwijnen	verdween, verdwenen	is verdwenen	消える
vergelijken	vergeleek, vergeleken	heeft vergeleken	比較する、たとえる
vergeten	vergat, vergaten	is/heeft vergeten	忘れる
verkopen	verkocht, verkochten	heeft verkocht	売る
verliezen	verloor, verloren	heeft verloren	失う
verstaan	verstond, verstonden	heeft verstaan	理解する、聞こえる
vertrekken	vertrok, vertrokken	is vertrokken	出発する
verwijzen	verwees, verwezen	heeft verwezen	差し向ける、参照する
vinden	vond, vonden	heeft gevonden	見つける

vragen	vroeg, vroegen	heeft gevraagd	尋ねる
wassen	waste, wasten	heeft gewassen	洗う
wegen	woog, wogen	heeft gewogen	重さを量る、重さがある
weten	wist, wisten	heeft geweten	知っている
wijzen	wees, wezen	heeft gewezen	示す、指摘する
willen	wou/wouden	heeft gewild	～したい、欲する
winnen	won, wonnen	heeft gewonnen	勝つ
worden	werd, werden	is geworden	～になる
zeggen	zei, zeiden	heeft gezegd	言う
zenden	zond, zonden	heeft gezonden	送る
zien	zag, zagen	heeft gezien	見る、見える
zijn	was, waren	is geweest	ある、いる
zingen	zong, zongen	heeft gezongen	歌う
zitten	zat, zaten	heeft gezeten	座っている、ある
zoeken	zocht, zochten	heeft gezocht	探す
zullen	zou, zouden	-	～する（となる）だろう
zwemmen	zwom, zwommen	heeft/is <sup>81</sup> gezwommen	泳ぐ

## 付録Ⅱ 数詞<sup>83</sup>

### a. 基数

0	nul	20	<i>twintig</i>
1	een <sup>84</sup>	21	eenentwintig
2	twee	22	tweeëntwintig <sup>85</sup>
3	drie	23	drieëntwintig
4	vier	24	vierentwintig
5	vijf	25	vijfentwintig
6	zes	26	zesentwintig
7	zeven	27	zevenentwintig
8	acht	28	achtentwintig
9	negen	29	negenentwintig
10	tien	30	<i>dertig</i>
11	<i>elf</i>	40	<i>veertig</i>
12	<i>twaal</i> f	50	vijftig
13	<i>dertien</i>	60	zestig
14	<i>veertien</i>	70	zeventig
15	vijftien	80	<i>tachtig</i>
16	zestien	90	negentig
17	zeventien		
18	achttien	100	honderd <sup>86</sup>
19	negentien	200	tweehonderd

274	tweehonderdvierenzeventig
1000	duizend <sup>87</sup>
1154	elfhonderdvierenvijftig <sup>88</sup>
5432	vijfduizend vierhonderdtweëndertig
1.000.000	een miljoen

### b. 序数

序数は基数に **-de** または **-ste** を付けて作る

1e	<i>eerste</i>	11e	elfde
2e	tweede	12e	twaaifde
3e	<i>derde</i>	13e	dertiende
4e	vierde		

<sup>83</sup> 形の不規則なものは、イタリック体で示した。日時の表現については付録Ⅳ参照。

<sup>84</sup> この **een** は不定冠詞ではなく数詞で、長母音の/ē/ではっきりと発音する。**één** と書かれることも多い。

<sup>85</sup> この「**’**」いわゆる分音符（トレマ）は、 **twee-en-twintig** のように新しい音節の始まりを意味する。

<sup>86</sup> **éénhonderd** にはならず、 **honderd** となる。

<sup>87</sup> **éénderduizend** にはならず、 **duizend** となる。

<sup>88</sup> **duizend honderdvierenvijftig** よりも、 **elfhonderdvierenvijftig** を用いる。

5e	vijfde	20e	twintigste
6e	zesde	30e	dertigste
7e	zevende	40e	veertigste
8e	achtste		
9e	negende	100e	honderdste
10e	tiende	1000e	duizendste

### c. 数量詞

次の語は、数量の大小を表すのに使われる。

veel	多くの、多量の	veel water	大量の水
	多くの、多数の	veel mensen	大勢の人々
weinig	少しの、少量の	weinig water	少量の水
	少しの、少数の	weinig mensen	僅かの人々
genoeg	十分な	genoeg water	十分な水
		genoeg mensen	十分な人数
wat	少し、いくぶん	wat water	少量の水
	多少の	wat mensen	少数の人
	少しの	wat geld	いくらかのお金
enkele	いくつかの、少数の	enkele mensen	何人かの人
sommige	ある、いくつかの	sommige mensen	何人かの人
verschillende	いくつかの、さまざまな	verschillende mensen	数人の人
een paar	いくつか、少数の	een paar mensen	2, 3 人の人

### d. 慣用的な表現

$4 + 1 = 5$	vier plus één is vijf (または vier en één is vijf)
$5 - 1 = 4$	vijf min één is vier
$2 \times 2 = 4$	twee keer twee is vier (または twee maal twee is vier)
$4 : 2 = 2$	vier gedeeld door twee is twee
$\frac{1}{2}, 1\frac{1}{2}, 2\frac{1}{2}, 3\frac{1}{2}$	een half, <sup>89</sup> anderhalf, twee en een half, drie en een half
$\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \frac{1}{4}, \frac{1}{5}$	een tweede, een derde, een vierde, <sup>90</sup> een vijfde
$\frac{1}{4}, \frac{2}{4}, \frac{3}{4}, \frac{4}{4}$	een kwart, twee kwart, drie kwart, vier kwart
$\frac{1}{100}, \frac{1}{1000}$	een honderdste, een duizendste
$\frac{9}{10}$	negen tiende
$\frac{1}{19}$	een negentiende
$1 \text{ m}^2$	1 vierkante meter
$1 \text{ m}^3$	1 kubieke meter

<sup>89</sup> または **een tweede**。その下の行参照。

<sup>90</sup> または **een kwart**。その下の行参照。



### 付録Ⅲ 数量単位

原則として、数えられるものが複数あるときには、複数形を用いる。

Hoeveel katten heb jij?	あなたは猫を何匹飼っていますか？
Ik heb één kat.	私は猫を1匹飼っています。
Ik heb twee katten.	私は猫を2匹飼っています。
Ik heb een paar katten.	私は猫を2匹3匹飼っています。

しかし、ほとんどの数量単位は、数詞の後ろに「単数形」で用いる。

1 kilo	1 キロ
2 kilo	2 キロ
3 kilo	3 キロ

以下も同様である。

3 gram	3 グラム
3 jaar	3 年
3 uur	3 時間
3 kwartier	45 分 (3×1/4 時間)
3 euro <sup>91</sup>	3 ユーロ
3 meter	3 メートル
3 centimeter	3 センチメートル
3 millimeter	3 ミリメートル

**hoeveel** (どれだけ、いくつ、いくら)、**zoveel** (それほど、同じくらい) や **een paar** (いくつかの、少数の) をこれらの数量単位とともに使うときにも、単位は単数形で用いる。

hoeveel kilo?	何キロですか？
zoveel meter	その程度の長さ、それほど (多く) の長さ
een paar jaar	2, 3 年

ただし、次のような例外もある

3 maanden	3 ヶ月
3 weken	3 週間
3 dagen	3 日
3 minuten	3 分
3 seconden	3 秒
3 graden	3 度
hoeveel maanden?	何ヶ月ですか？

<sup>91</sup> € 12,50 の読み方は、*twalf euro vijftig*、または、単に *twalf vijftig* となる。

zoveel minuten  
een paar graden

その程度の時間、それほど（多く）の時間  
2, 3 度

Examples:

300 kilo is<sup>92</sup> te veel.

1000 jaar is lang.

3 kwartier is 45 minuten.

35 centimeter is 350 millimeter.

2 minuten is 120 seconden.

8 weken is twee maanden.

300 キロは重過ぎます。

1000 年は長い歳月です。

3/4 時間は 45 分です。

35 センチは 350 ミリです。

2 分は 120 秒です。

8 週間は 2 ヶ月です。

---

<sup>92</sup> これらの定形動詞も単数形である。

## a. 年

西暦の読み方は次のようになる。

1300 - **dertienhonderd**

1964 - **negentien vierenzestig**

2004 - **tweeduizend vier**

**v.Chr. (voor Christus):** 紀元前 (B.C.)

**n.Chr. (na Christus):** 紀元後

**A.D. (Latin: anno Domini):** 西暦...年

ローマ数字は、オランダでも建築物などに使われている。基本的なローマ数字の記号は次のとおりである。

**M** = 1000

**D** = 500

**C** = 100

**L** = 50

**X** = 10

**V** = 5

**I** = 1

これらの記号の後ろ（右側）に小さな数の記号を置けば、足し算となる。

**MD** = 1500

**DC** = 600

**LXX** = 70

**VIII** = 8

これらの記号の前（左側）に小さな数の記号を置けば、引き算となる。

**CM** = 900

**XC** = 90

**XL** = 40

**IX** = 9

**IV** = 4<sup>93</sup>

すなわち、**MCMLXIV** は 1964、**MMVII** は 2007 となる。

## b. 季節

---

<sup>93</sup> ただし、ローマ数字を使った時計の文字盤には、**IIII** の表記も見られる。

de winter	冬
de lente, het voorjaar	春
de zomer	夏
de herfst, het najaar	秋

### c. 月<sup>94</sup>

januari	1月
februari	2月
maart <sup>95</sup>	3月
april <sup>96</sup>	4月
mei	5月
juni	6月
juli	7月
augustus	8月
september	9月
oktober	10月
november	11月
december	12月

### d. 曜日<sup>97</sup>

maandag	月曜日
dinsdag	火曜日
woensdag	水曜日
donderdag	木曜日
vrijdag	金曜日

<sup>94</sup> 月名のほとんどは古代ローマに由来する。例えば、**maart** (3月) は Mars (マルス、軍神)、**mei** (5月) は Jupiter Maius (ユピテル・マイウス; これとは別にマイア (実りの神) とする説もある。)、**juni** (6月) は Juno (ユノー、女性と結婚を司る女神)、**juli** (7月) と **augustus** (8月) は、皇帝ユリウス・カエサルとアウグストゥスに因んでいる。ローマ歴では **maart** (3月) が最初の月であり、このことから **september** (septem は7の意)、**oktober** (octo は8)、**november** (novem は9)、**december** (decem は10) はそれぞれ7, 8, 9, 10番目にあたる月のことであったとわかる。ローマ歴の最後の月にあたる **februari** (2月) に閏日が入ることは、昔も今も変わらない。

<sup>95</sup> **Maart roert zijn staart** (3月が尾を振り回している→3月の天気は予測できない) というように、3月には凍える寒さの日も雪が降る日も、気温が25度まで上がる日もあるが、概して雨の日が多い。この月に因んで名付けられた **maartse buien** (“3月雨”→春先に降るにわか雨) さえある。

<sup>96</sup> **April doet wat hij wil** (4月の天気は好き放題だ→4月の天気は気紛れ) というのは、4月の天気はどうなるかわからないということである。

<sup>97</sup> いくつかの曜日名は古代ゲルマンの神に因む。**woensdag** (水曜日) は、軍神ウォーダン (北欧神話のオーディンにあたる)、**donderdag** (木曜日) は、雷神ドナルド (北欧神話のトールにあたる)、**vrijdag** (金曜日) は、豊穡の女神フレイヤによる。

zaterdag	土曜日
zondag	日曜日

### e. 時刻と時間<sup>98</sup>

オランダ語には、独特の時刻表現がある。毎時 20 分になったら、次の時刻を表現に使う。

10.20 = 10 voor half 11 (a.m.)

17.20 = 10 voor half 6 (p.m.)

まずは基本表現から見る。

een uur <sup>99</sup>	1 時間	=	60 分
een half uur	半時間	=	30 分
een kwartier <sup>100</sup>	¼時間	=	15 分
een minuut <sup>101</sup>	1 分	=	60 秒
een seconde <sup>102</sup>	1 秒		

付録Ⅲ 数量単位で見たように、1/4 時間（15 分）や 1 時間などの単位は、複数であっても常に単数形で表すが、分や秒については、複数のときには単位も複数形にする。

een dag = 24 uur	1 日	=	24 時間
een uur = 4 kwartier	1 時間	=	4 × ¼時間
een kwartier = 15 minuten	¼時間	=	15 分
een minuut = 60 seconden	1 分	=	60 秒

次の例で、時に関する慣用表現や前置詞に注意。

Hoe laat is het?	今何時ですか？
Het is 11 uur.	11 時です。

Hoe laat vertrekt de trein?	その列車は何時に出ますか？
De trein vertrekt <b>om</b> 12 uur.	その列車は 12 時に出ます。

Hoe lang duurt de reis?	その行程にはどのくらい時間がかかりますか？
De reis duurt 2 uur en 10 minuten.	その行程は 2 時間 10 分かかります。

Tot hoe laat moet je wachten?	あなたは何時まで待たなければなりませんか？
<b>Tot</b> 12 uur.	12 時までです。

<sup>98</sup> 文章体では 24 時間制を、口語体では 12 時間制を用いる。

<sup>99</sup> 定冠詞を付ける場合は、*het uur*。

<sup>100</sup> 定冠詞を付ける場合は、*het kwartier*。

<sup>101</sup> 定冠詞を付ける場合は、*de minuut*。

<sup>102</sup> 定冠詞を付ける場合は、*de seconde*。

Hoe laat kom je aan?  
Ik kom **om** 10 over 2 aan.

あなたは何時に着く予定ですか?  
私は2時10分過ぎに着く予定です。



Twaalf uur



Vijf over twaalf



Tien over twaalf



Kwart over twaalf



Tien voor half een



Vijf voor half een



Half een



Vijf over half een



Tien over half een



Kwart voor een



Tien voor een



Vijf voor een

## 付録V 前置詞

外国語で前置詞を使うのは難しいものであるが、それは前置詞が慣用表現の一部を成しているからである。そこで、訳だけでなく文脈もわかるようにした。

- aan**           Ik zit aan tafel.  
私はテーブルについてます。
- Er is iemand aan de deur.  
ドアのところに誰かがいます（誰かが来ています）。
- De foto hangt aan de muur.  
その写真は壁に掛かっています。
- Ik geef het boek aan jou.  
私はその本をあなたにあげます。
- achter**       Hij staat achter een boom.  
彼は木の後ろに立っています。
- behalve**      Hij is er altijd behalve vandaag.  
彼は今日以外いつもそこにいます。  
(いつもそこにいますが、今日はいません。)
- beneden**      West-Nederland ligt beneden zeeniveau.  
オランダ西部は、海面下にあります。
- bij**           Ik was bij de boekwinkel.  
私はその本屋にいました（または行っていました）。
- Ik woon dicht bij de universiteit.  
私はその大学のすぐ近くに住んでいます。
- Ik heb een boek bij me.  
私は本を持ってきています。
- Ik woon bij mijn tante.  
私はおばのところに住んでいます。
- binnen**       Ik ben binnen een uur klaar.  
I 私は1時間以内に（用意が）できます。
- boven**       Hij woont boven een winkel.  
私は店舗の上（階）に住んでいます。

Oost-Nederland ligt boven zeeniveau.

お蘭 d な頭部は、海面より上の位置にあります（海面より高いです）。

Het is boven de 35 graden.

気温は 35°C を超えています。

**buiten**

Hij is buiten gevaar.

彼は危険を脱しています。

Ik woon buiten de stad.

私はその市外に住んでいます。

**dankzij**

Ik heb dit boek dankzij jou.

あなたのおかげで、私はこの本を手にはしています。

**door**

Hij is door een auto aangereden.

彼は車にはねられました。

Ik loop door het bos.

私はその森を歩いて抜けて（またはその森の中を歩きまわって）います。

**gedurende**

Gedurende het weekend heb ik vrij.

その週末の間ずっと、私は休みです（仕事が入っていません）。

**in**

Ik ben in de keuken.

私は台所にいます。

Ik moet dit in het Engels vertalen.

私はこれを英語に訳さなければなりません。

In het weekend heb ik vrij.

週末私は休みです（仕事が入っていません）。

**langs**

Hij loopt langs de rivier.

彼はその川沿いに歩いています。

**met**

Ik kom met de fiets.

私は自転車で行きます。

Ik kom met Kerstmis.

私はクリスマス（のとき）に行きます。

Ik wil koffie met suiker.

砂糖入りのコーヒーをください。

**na**

Na u!

お先にどうぞ。



Na de winter ga ik naar Parijs  
冬のあとで（冬が過ぎたら）、私はパリに行く予定です。

**naar** Hij gaat naar Amsterdam.  
彼はアムステルダムに行く予定です。

De trein naar Parijs vertrekt nu.  
パリ行きの列車は今発車するところです。

**naast** Ik zit naast een student.  
私は学生の隣に座っています。

**om** Wij zitten om de tafel.  
私たちはテーブルを囲んでいます。

Ik kom om 12 uur.  
私は12時に（着くように）行きます。

**onder** Wij praten veel onder het eten.  
私たちは夕食ではたくさん話します（会話が弾みます）。

De kat zit onder de tafel.  
その猫はテーブルの下に（座って）います。

**op** Ik heb geen geld op de bank.  
私は銀行にお金を預けていません。

De koffie staat op tafel.  
コーヒーはテーブルの上にあります。

**over** Ik lees een boek over Erasmus.  
私はエラスムスについての本を読んでいます。

Ik loop over de brug.  
私はその橋を渡っているところです。

Ik kom over een uur.  
私は1時間で行きます。

Hij is over de veertig.  
彼は40を超えています。

**per** Reizen per trein is comfortabel.  
列車での旅は快適です。

Deze tomaten kosten 1 euro per kilo.  
これらのトマトは1キロ当たり1ユーロします。

**rond** Wij zitten rond het vuur.  
私たちは火を囲んで座っています。

**sinds** Hij studeert sinds 2004.  
彼は2004年から（大学で）学んでいます。

**te** Dit huis is te huur.  
この家は貸家です。

Ik ben geboren te Utrecht.  
私はユトレヒト生まれです。

**tegen** Hij leunt tegen de muur.  
彼は壁に寄りかかっています。

Hij stemt tegen dit voorstel.  
彼はこの提案に反対票を投じます。

Hij is heel aardig tegen mij.  
彼は私にとっても親切です。

**tegenover** Ik woon tegenover het station.  
私はその駅の向かいに住んでいます。

**tijdens** Tijdens de zomer kom ik.  
私は夏に行きます。

**tot** Deze trein rijdt tot Leiden.  
この列車はライデンまで行きます（ライデン止まりです）。

Ik wacht tot 12 uur.  
私は12時まで待ちます。

Tot volgende week!  
また来週！

**tussen** De trein staat stil tussen Leiden en Den Haag.  
その列車はライデンとデン・ハーグの間でとまっています。

Er is een verschil tussen A en B.  
AとBは違います。

**uit** Ik kom uit Nederland.  
私はオランダ出身です。

Hij stapt uit de trein.  
彼はその列車を降ります。

De kat springt uit het raam.  
その猫はその窓から飛び出します。

**van** Hij werkt van 9 tot 5.  
彼は9時から5時まで働いています

Hij is de zoon van Jan.  
彼はヤンの息子です。

Deze pen is van mij.  
このペンは私のです。

Dat is aardig van je.  
それはご親切にどうも。

**vanaf** Ik werk vanaf 2000.  
私は2000年から働いています。

**vanwege** Ik kan niet slapen vanwege de muggen.  
私は蚊のせいで眠れません。

**via** Ik ga via Parijs naar Rome.  
私はパリ経由でローマに行く予定です。

**volgens** Volgens het weerbericht gaat het regenen.  
天気予報によると、雨になるそうです。

Volgens mij gaat het regenen.  
雨になると思います。

**voor** Ik ben vóór 6 uur klaar.  
私は6時前には（用意が）できます。

Dit moet vóór 1 april klaar zijn.  
これは4月1日より前にできていなければなりません。

Ik kom voor jou.  
あなたに会いに来ました。

Ik sta voor het huis.  
その家の前に立っています。

Hij stemt voor dit voorstel.  
彼はその提案に賛成票を投じます。

**voorbij** Hij rijdt voorbij Leiden.  
彼は車でライデンを過ぎたところです。

**zonder** De reis verloopt zonder problemen.  
その旅は問題なく進んでいます。

## 決まった前置詞とともに使う動詞（句動詞）

わずかだが例を挙げる。

beginnen met	～から始まる（～から始める）
denken aan	～のことを考える
gaan naar	～へ行く
geven aan	～に与える、あげる
helpen met	～を助ける
houden van	～を好く、愛する
kijken naar	～を見る
lachen om	～を笑う
luisteren naar	～を聞く
stoppen met	～するのをやめる
trek hebben in	（食べ物）～がほしい（食べたい、飲みたい）
vragen aan	（人）～に尋ねる
wachten op	～を待つ
zin hebben in iets <sup>103</sup>	（何か）～がほしい

## 時の表現と、それに使われる前置詞

Tijd	（時刻）	Ik kom <b>om</b> 12 uur.
Dagen en data	（曜日・日付）	Ik kom <b>op</b> woensdag 17 september.
Weekend	（週末）	Ik kom <b>in</b> het weekend.
Maanden	（月）	Ik kom <b>in</b> september.
Seizoenen	（季節）	Ik kom <b>in</b> de zomer.
Jaren	（年）	Ik kom <b>in</b> 2017.

<sup>103</sup> **zin hebben** を使った構文は2通りできる。

**zin hebben in** + 名詞 例： ik heb zin in koffie

**zin hebben + om (...)** te + 不定詞 例： ik heb zin om morgen naar Amsterdam te gaan.

第20章参照。

## 住所・地名と、それに使われる前置詞

Land	(国)	Ik woon <b>in</b> Nederland.
Stad/dorp	(市町村)	Ik woon <b>in</b> Leiden.
Wijk	(地区)	Ik woon <b>in</b> de Bloemenwijk.
Straat	(通り)	Ik woon <b>in</b> de Herenstraat.
Weg	(通り)	Ik woon <b>aan</b> de Appelweg.
Laan	(通り)	Ik woon <b>aan</b> de Lindelaan.
Gracht/singel	(通り)	Ik woon <b>aan</b> de Hooigracht.
Huisnummer	(番地)	Ik woon <b>op</b> nummer 15.
Verdieping	(階)	Ik woon <b>op</b> de tweede verdieping. <sup>104</sup>

---

<sup>104</sup> オランダ語では、**begane grond** (地上階、日本でいう1階) は階数には含まれない。

## 付録VI 副詞

副詞は、動詞や形容詞や別の副詞に付加的な情報を添える。副詞には形容詞のような語尾変化はない。次の例文で、副詞は太字で示してある。

Zij zingt **mooi**.  
Zij zing een **heel mooi** lied.  
Zij zingt **heel mooi**.

以下では、時・場所・方向・強意を表す副詞の使用頻度の高いものと、その他のよく用いられる副詞を挙げる。

### • 時を表す副詞

morgen	明日
overmorgen	明後日
gisteren	昨日
eergisteren	一昨日
overdag	日中 (に)
vandaag	今日
vanmorgen/vanochtend	今朝
vanmiddag	今日の午後
vanavond	今晚
vannacht	今夜、昨夜
's morgens/'s ochtends	朝に、午前中に
's middags	午後に
's avonds	夕方に、晩に
's nachts	夜に
binnenkort	まもなく
straks	まもなく、すぐに
later	後で
volgende week	来週
volgende maand	来月
volgend jaar	来年
altijd	いつも
meestal	たいてい、ふつう
regelmatig	規則的に、定期的に
soms	ときどき
af en toe/nu en dan	ときどき

even	しばらく、少し、ちょっと
zelden	まれに、めったに～ない
nooit	いまだかつて～ない
bijna nooit	ほとんど～ない
ooit	かつて、これまでに
eerst	最初に
dan	そのとき、それから
daarna	その次に、そのあとに、あとで
vervolgens	そのあとで、それから
ten slotte	最後に、結局
toen	そのとき
sindsdien	それ以来
al	すでに
weer	再び、もう一度
eindelijk	最後に、結局

#### • 場所を表す副詞

hier	ここで、ここに
daar	そこに、あそこに
er	そこに、そこで
binnen	内側に、内側で、屋内に
buiten	外側に、外側で、屋外に
overal	どこもかも、いたるところに
ergens	どこかに、どこかで
nergens	どこにも～ない
weg	いなくなって、なくなって
boven	上（上階）へ、上（上階）で
beneden	下（階下）へ、下（階下）で

#### • 方向を表す副詞

rechtdoor	まっすぐに、一直線に
naar links/linksaf	左へ
naar rechts/rechtsaf	右へ
terug	後ろに、後方に

• 強意を表す副詞

zeer <sup>105</sup>	非常に、とても
erg <sup>106</sup>	とても、非常に、ひどく
heel <sup>107</sup>	かなり、相当に
zo	たいへん、実に
te	あまりにも～、～すぎて

• その他のよく用いられる副詞

eigenlijk	実際には、本当は
graag	喜んで、快く
ook	～も、～もまた
misschien	たぶん
toch	それでも、やはり、それにもかかわらず、いずれにせよ

Heb je trek in een kopje thee? Ja, **graag!** Ik wil graag een kopje thee.  
紅茶をどうですか？はい、お願いします。喜んで紅茶をいただきます。

Yvonne en Ingrid gaan naar Rotterdam, en ik ga **ook** mee.  
イヴォンヌとイングリットはロッテルダムへ行きます。そして私も一緒に行きます。

Misschien vertrek ik zaterdag, misschien **ook** niet.  
私はもしかしたら土曜日に出発するかもしれないし、しないかもしれません。

Ik weet dat het niet mag maar ik doe het **toch!**  
それは許されていないとわかっていますが、いずれにしても私はやります。

De tentoonstelling is niet spectaculair maar **toch** aardig om te zien.  
その展覧会は見ごたえはりませんが、それでも見るのは悪くないです。

<sup>105</sup> あらたまった表現。主に文章体で用いられる。

<sup>106</sup> 口語体。

<sup>107</sup> 口語体。



## 付録Ⅶ 人や物を指す言葉

人を物を指すのに人称代名詞が使える。特に強調するときには指示代名詞も使われる。この場合の指示代名詞は、第11章でみたように名詞の前に置くのではなく、それだけ単独で用いる。用いられるのは **die** と **dat** の2つのみで、強調のために使うので、必ず文頭に置かれる。人を指し示すときには、単数・複数ともに **die** を使い、物に対しては **die** と **dat** を使い分ける。**die** は **de** 名詞と複数形に、**dat** は **het** 名詞の単数形に使う。

### a. 人を指すとき

#### 男性単数

Wat vind je van de nieuwe buurman?  
今度隣に越してきた男の人をあなたはどのように思いますか？

人称代名詞

主格	<b>Hij</b> is heel aardig.	彼はとても親切です。
目的格	Ik vind <b>hem</b> heel aardig.	私は、彼はとても親切だと思います。
前置詞の後ろ	Ik praat vaak met <b>hem</b> .	私は、彼とよく話をします。

指示代名詞

主格	<b>Die</b> is heel aardig.	彼ならとても親切です。
目的格	<b>Die</b> vind ik heel aardig.	彼ならとても親切だと私は思います。

#### 女性単数

Wat vind je van de nieuwe buurvrouw?  
今度隣に越してきた女の人をあなたはどのように思いますか？

人称代名詞

主格	<b>Ze/zij</b> is heel aardig.	彼女はとても親切です。
目的格	Ik vind <b>haar</b> heel aardig.	私は、彼女はとても親切だと思います。
前置詞の後ろ	Ik praat vaak met <b>haar</b> .	私は彼女とよく話をします。

指示代名詞

主格	<b>Die</b> is heel aardig.	彼女ならとても親切です。
目的格	<b>Die</b> vind ik heel aardig.	彼女ならとても親切だと私は思います。

#### 複数

Wat vind je van onze nieuwe burens?  
今度私たちの隣に越してきた人たちをあなたはどのように思いますか？

人称代名詞

主格

目的格

前置詞の後ろ

**Ze/zij** zijn heel aardig.  
Ik vind **ze** heel aardig.<sup>108</sup>  
Ik praat vaak met **ze**.<sup>109</sup>

彼らはとても親切です。  
私は、彼らはとても親切だと思います。  
私は彼らとよく話をします。

指示代名詞

主格

目的格

**Die** zijn heel aardig.  
**Die** vind ik heel aardig.

彼らならとても親切です。  
彼らならとても親切だと私は思います。

## b. 物を指すとき

### De 名詞

Waar is de krant?

新聞はどこですか？

人称代名詞

主格

目的格

前置詞の後ろ

**Hij** is er nog niet.  
Ik zie **hem** nergens.  
Ik zoek **er** al uren **naar**.<sup>110</sup>

それはまだ来ていません。  
どこにもそれは見当たりません。  
私はもう何時間もそれを探しています。

指示代名詞

主格

目的格

**Die** is er nog niet.  
**Die** zie ik nergens.  
**Die** zoek ik al uren.

それならまだ来ていません。  
それはどこにも見当たりません。  
それなら私はもう何時間も探しています。

### Het 名詞

Waar is mijn woordenboek?

私の辞書はどこですか？

人称代名詞

主格

目的格

前置詞の後ろ

**Het** staat niet in de kast.  
Ik zie **het** nergens.  
Ik zoek **er** al uren **naar**.

それは本箱にはありません。  
どこにもそれは見当たりません。  
私はもう何時間もそれを探しています。

<sup>108</sup> **ze** の代わりに **hen** も使われる。

<sup>109</sup> **ze** の代わりに **hen** も使われる。

<sup>110</sup> この文で動詞 **zoeken** には決まって使う前置詞 **naar** がある。完全な文章としては、「Ik zoek al uren naar de krant」となる。手短かに表現したいときには **naar de krant** を **ernaar** に置き換える。第 12 章でみたように、**er** は物しか指さず、人を指すことはない。この **ernaar** という語は分離しやすいので、さらに強調したい場合には、「**Daar** zoek ik al uren **naar**!」とできる。

指示代名詞

主格

目的格

**Dat** staat niet in de kast.

**Dat** zie ik nergens.

**Dat** zoek ik al uren.

それは棚の中にありません。

それはどこにも見当たりません。

それを私はもう何時間も探しています。

複数

Waar zijn mijn tijdschriften?

私の雑誌類はどこですか？

人称代名詞

主格

目的格

前置詞の後ろ

**Ze** liggen niet op tafel.

Ik zie **ze** nergens.

Ik zoek **er** al uren **naar**.

それらはテーブルの上ではありません。

どこにもそれらは見当たりません。

私はもう何時間もそれらを探しています。

指示代名詞

主格

目的格

**Die** liggen niet op tafel.

**Die** zie ik nergens.

**Die** zoek ik al uren.

それらはテーブルの上ではありません。

それらはどこにも見当たりません。

それらを私はもう何時間も探しています。

## 付録VIII 基本文法用語集

aanwijzend voornaamwoord	指示代名詞
accentteken	強勢記号 (アクセント)
achtervoegsel	接尾辞
afgeleid	派生した
apostrof	アポストロフィ「'」
beklemtoond	強調された、強勢のある
bepaald	限定する、限定的な
betrekkelijk voornaamwoord	関係代名詞
betrekkelijke bijzin	関係詞節
bezittelijk voornaamwoord	所有代名詞
bijvoeglijk naamwoord/adjectief	形容詞
bijwoord	副詞
bijzin	従属節
directe rede	直接話法
enkelvoud	単数
formeel	敬称、公式の、あらたまった
gebiedende wijs	命令法
geslacht	性
gesloten lettergreep/syllabe	閉音節
gesloten vraag	一般疑問文
gespecificeerd	特定の
hoeveelheidswoord	数量詞
hoofdletter	大文字
hoofdtelwoord	基数詞
hoofdwerkwoord	本動詞
hoofdzin	主節
hulpwerkwoord	助動詞
indirecte rede	間接話法
infinitief	不定詞
informeel	親称、くだけた、略式の
inversie	倒置
ja-nee vraag	一般疑問文
kleine letter	小文字
klinker	母音
klinkerletter	母音字
lettergreep	音節
lidwoord	冠詞
lijdend voorwerp	直接目的語
lijdende vorm	受動文、受動態
mannelijk	男性の

mededeling	平叙文
medeklinker	子音
meervoud	複数
meewerkend voorwerp	間接目的語
modaal (hulp)werkwoord	(法) 助動詞
naamval	格
nevenschikkend voegwoord	等位接続詞
niet-telbaar	不可算 (名詞)
onbeklemtoond	強調されていない、無強勢の
onbepaald	不定代名詞/数量詞
onbepaald voornaamwoord/telwoord	不定の
onderschikkend voegwoord	従位接続詞
onderwerp	主語
ongespecificeerd	不特定の
onpersoonlijk	非人称の
onregelmatig	不規則の
onscheidbaar	非分離の
ontkenning	否定
onzijdig	中性の
open lettergreep/syllabe	開音節
open vraag	特殊疑問文
overtreffende trap/superlatief	最上級
passieve zin	受動文、受動態
persoonlijk voornaamwoord	人称代名詞
persoonsvorm	定形動詞
rangtelwoord	序数詞
regelmatig	規則変化の
samengesteld woord	複合語、合成語
samengestelde zin	重文、複文
samenstelling	複合語
scheidbaar	分離できる
schrijftaal	文章体
spreektaal	口語体
stam van het werkwoord	動詞の語幹
stam	語幹
stofnaam	物質名詞
substantief	名詞
tegenwoordige tijd	現在時制
telwoord	数詞
toekomstige tijd	未来時制
trema	分音記号 (トレマ) 「”」
uitgang	語尾
uitspraak	発音

vergrotende trap/comparatief	比較級
verkleinwoord	指小語、縮小語
verleden tijd	過去時制
vervoegen	(動詞を)活用させる
verzwakte vorm	弱化形 (強勢を弱めた発音)
vocaal	母音
voegwoord	接続詞
voltooid deelwoord	過去分詞
voltooid tegenwoordige tijd	現在完了時制
voltooid verleden tijd	過去完了時制
voltooide tijd	完了時制
voorlopig onderwerp	仮主語
voorvoegsel	接頭辞
voorzetsel	前置詞
vraag	疑問文
vraagwoord	疑問詞
vrouwelijk	女性の
wederkerend voornaamwoord	再帰代名詞
wederkerig voornaamwoord	相互代名詞
werkwoord met vast voorzetsel	動詞
werkwoord	句動詞
woordvolgorde	語順
zelfstandig naamwoord/substantief	名詞
zin	節、文
zinsdeel	文の構成要素